

篁

会報

2014 No.25

東京府立第二高等女学校同窓会

東京都立竹早高等学校同窓会

GALLERY ON COVER

「篁 72 回生の、いま」

竹早高校 547 年卒の方々から届いた近況です。

- 1 平面作品『色』と立体作品『空』／山本裕子
- 2 写真『テキサス州の花』／ネルソン・田力恵美子
- 3 商業施設プロジェクト『中国南京市』／横田国臣
- 4 陶芸作品『皿』／天野緑
- 5 アシスタントモビリティ『ユニモ』開発／竹内幹夫



篁会総会・講演会のご案内	1
篁会会長・校長挨拶	2
第6回篁会セミナー報告	12
学校の活動報告	17
在校生の活躍紹介	18
なつかしの先生	19
清里自然の森 山荘	20

竹早エコー	21
平成25年度「篁会総会・懇親会」報告	24
篁情報館	25
第7回篁寿会	27
関西篁会だより・湘南篁会だより	28
理事会報告	29

特集

「1969」から「2014」へ

—— 1969年、都立竹早高校に入学した篁72回生の「現在」と「高校時代」 ——
..... 3

平成 26 年度 篁会総会のご案内

今年は篁会が発足して
114 年にあたります。
皆様ふるってご参加
ください。

日 時
2014 年 6 月 15 日 (日)

会費 8,000 円

平成 23 年～26 年卒は 2,000 円

受付開始 10:30
総 会 11:00～11:40
講 演 会 11:45～12:30
懇 親 会 12:40～14:50

- ご出席の方は、同封のハガキで 5 月 23 日 (金) までにお申し込みください。
- 会費は、5 月 23 日 (金) までに同封の郵便局の払込取扱票でお振り込みください。



会場 東京プリンスホテル
(2階・サンフラワーホール)

東京都港区芝公園 3-3-1
TEL.03-3432-1111

交通のご案内

電車で

- ◆JR 線・東京モノレール 浜松町駅から徒歩 10 分
- ◆都営三田線 御成門駅 (A1) から徒歩 1 分
- ◆都営浅草線・大江戸線 大門駅 (A6) から徒歩 7 分
- ◆都営大江戸線 赤羽橋駅 (赤羽橋口) から徒歩 7 分
- ◆東京メトロ日比谷線 神谷町駅 (3 番) から徒歩 10 分

お車で

- ◆東京駅から 10 分 (順調時)
- ◆羽田空港から首都高速芝公園ランプ経由 15 分 (順調時)
- ◆東京シティアターミナル (箱崎) から 15 分 (順調時)

<今回幹事>
高校 24 回生：昭和 47 年卒

<次回幹事>
高校 25 回生：昭和 48 年卒

<総会・懇親会のお問い合わせ先>
加藤 幸太郎 高校 24 回生 (篁 72 回生)
TEL.090-9244-2096

講演会のご案内

「巨大地震へどう備えるか」 — 地震津波の被害軽減への挑戦 —



講師
金田 義行氏

【講演概要】

南海トラフ巨大地震や首都直下地震は日本の最大級の防災課題です。

南海トラフ巨大地震の被害は 32 万人を超える甚大な犠牲が想定されていますし、首都直下地震においても甚大な被害が想定されることは言うまでもありません。

日本の地震研究は世界でも先進的と考えられていますが、東日本大震災を目の当たりにして、その認識が崩れたことも事実です。

しかし、甚大な津波災害となった東日本大震災の教訓を活かして、南海トラフ巨大地震や首都直下地震へ備えることが地震津波被害の軽減への道だと考えます。ここでは、最新の地震研究や科学技術の現状を紹介します。また、ハード面である程度の被害軽減は可能ですが、それだけでは十分ではありません。地震津波が発生した際に「生きる力」を発揮するために何が必要かを皆さんと考えたいと思います。

【経歴】

- 昭和 47 年 竹早高校卒業
- 昭和 54 年 東京大学理学系研究科大学院
地球物理学専攻修士課程 修了
- 昭和 54 年 石油公団 石油開発技術センター 入所
- 平成 4 年 株式会社大林組 技術研究所 入社
- 平成 9 年 海洋科学技術センター (現：独立行政法人海洋研究開発機構) 入社
- 平成 18 年 同・海洋工学センター
海底地震・津波ネットワーク開発部 部長
- 平成 21 年 同・地震津波・防災研究プロジェクト
プロジェクトリーダー
- 平成 26 年 名古屋大学 減災連携研究センター 特任教授

地震本部政策委員、内閣府 南海トラフの巨大地震モデル検討委員、「京」コンピュータプロジェクト「地震津波課題」総括責任者ほかを歴任。著書に『先端巨大科学で探る地球』、共著に『サイエンスカフェようこそ』

簗会会長挨拶 「想うこと」

松本 紀子 高女 41 回生 昭和 16 年卒（簗 41 回生）

「90 歳近い同窓会長なんて珍しくていいじゃないの、よろしくね」。

これは、平成 23 年私が不承不承簗会会長をお引き受けした時の、2 年後輩の城戸崎愛さんの言葉、今でも私の耳の底に残っています。

私自身も不安を感じながら戸惑っていましたが、70 年ぶりに訪れた母校の温かい空気は昔のままでした。校長先生を初め教職員の皆様、父母の会の熱心な方々、そして後輩の簗会会員の各位が優しく迎えて下さり、人生最後にこのような貴重な経験をさせていただいたことに今は感謝の気持ちで一杯です。

長いような短いような 3 年間、振り返ってみますといろいろなことがありました。

平成 23 年 6 月の総会で会長としての仕事が始まり、まず 7 月の簗会特別セミナーに参加しました。セミナーは今年度第 6 回を数え、昨年度からは土曜セミナーも加わりました。多方面で活躍する卒業生の豊富な人材にまず驚嘆しましたが、さまざまな業種、職種に携わる先輩とのこの出会いがもしかすると若い在校生たちの将来を大きく左右するのでは・・・と思うと胸がワクワクしました。熱心に耳を傾ける生徒たちの後姿を拝見しながら、遠い昔にこの地で師から学んだ記憶をたどっておりました。

平成 23 年 9 月の竹早祭では「お休み処かむら」で皆でお揃いの T シャツを着て販売を行い、美味しいコーヒーでくつろぐお客様との出会いを楽しみました。

平成 23 年 11 月には大阪で関西簗会の皆様にお目にかかり、和やかな会となりました。翌 24 年 3 月には卒業式に参列させていただき、美しい校歌の 2 部合唱に聞き入りました。母校は母港、それぞれどこにいても、いつでも戻ってこられる場所であるようにと祈りました。

簗会 110 周年記念事業として、東京府立第二高等女学校の記念碑が建立されました。平成 24 年 3 月の除幕式では、ヒマラヤ杉のもとに建てられた記念碑を見つめ、先輩を大切に想ってくれる同窓生の方々の気持ちが嬉しく、心より感謝し、幸せな思いに包まれました。

平成 24 年 5 月には簗会 web 同窓会システムがスタートしました。これによって今後の同窓会活動がはるかにスムーズに進み、繋がりも深まることと思います。また教育基金奨学生制度が充足し、7 月には奨学生認証式が行われ、翌 25 年度も第 2 回目が行われ、成績優秀な奨学生を激励しました。

高女の時代から数えた簗〇〇〇回生という呼び名が定着してきたことも嬉しい限りです。

いずれの活動も、準備には多くの同窓生の力が結集されています。関わってくださった皆さまのボランティア精神なくしては成し得なかったことです。ある方が笑顔でこう言っておられました。「(同窓会活動に) 誘われて、私に出来るかなと思っているうちに、気がついたらいつのまにか、いろんなことをやっていた・・・」。お一人お一人の、出来ることをやろう、という気持ちがこんなにも大きなパワーを生み出すということを実感しております。人生には仕事や家庭のことに追われ、日々の暮らしに時が流れていく時期もごさいますが、ふと立ち止まって振り返った時に竹早の存在が皆様の心にあるように、そしてそこから、また前に進んでいけますようにと願っております。母校を想う竹早魂が次世代に繋がっていくようにと、祈っております。

掲載の写真は平成 25 年 5 月 15 日、湘南簗会に同級生 4 人の顔がそろいましたところ です。

母校竹早高校、そして簗会のますますのご発展を心よりお祈りしています。有り難うございました。



仲田珠子さん 河野かつ子さん 松本紀子 石渡咲子さん
しめて 360 歳 (撮影 湘南簗会 影本昌則会長)

校長挨拶

「誇るべき母校」をつなぐ

丹藤 浩 竹早高校校長

校門をくぐると微笑ましい人形が和やかな気持ちにさせてくれます。入試の合格発表時には格式ある雛人形が受験生を迎えます。そうした本校に着任以来、4 年の月日が流れようとしています。振り返れば、「進学指導推進校」の指定、110 周年記念式典、東日本大震災と着任 1 年目に多くのことがありました。しかし、常に私の心の中には、「母校は、学業のレベル品格とも、一世紀にわたって定評があり、それを私たちは誇りにしてきました」との 100 周年式典記念誌の同窓生の言葉がありました。「誇らしい母校」を次代に引き継ぐための「今」が、私にとっての 4 年間でした。縁あって赴任した学校が 70 年の歴史を経て閉校となった時、同窓生の無念さを痛いほど感じた経験が、そのように思わせます。

110 周年記念行事は多くの人々の協力と知恵により、式典では多くの来賓から「さすが竹早」とのお褒めをいただきました。進学実績、模試結果等も上昇の傾向にあります。生活指導における真の「自主自律」の徹底など、至らぬ点も多く、定評のあった「学業のレベルや品格」には、未だほど遠いものですが、自分なりの手ごたえを感じて引継ぎを迎えられるのは幸いです。

簗会セミナーは同窓生の皆様の母校愛に支えられ、本校生に自己の将来を考えさせ意欲を高めさせる働きを十分に担っています。「今」を巣立つ多くの生徒が、また、いつか本校を訪れ、後輩に自分の学生生活や職業生活を語ってくれることだろうと思います。伝統校ゆえの「人材力」とでも言うべき強みに驚き、本校の良さとして募集活動でも訴え、多くの志願者にも恵まれた月日でした。心より皆様の母校愛に感謝申し上げ、敬意を表したいと存じます。

「誇らしい母校」が次代に引き継がれるように、生徒に「竹早」での生活に充実と喜びとを感じさせ、竹早を担う「一人一校を代表す」の気概を育てたいと願う日々も残り少なくなってきました。力足らずで申し訳ありませんでしたがご容赦ください。

竹早高校、簗会、そして、この竹早に縁あって集われた皆様のご多幸を心より祈念しております。

(丹藤先生は 2014 年 3 月末をもって竹早高校校長を退任されました)



「この年、東京大学は入試を中止した。ビートルズはホワイトアルバムとイエローサブマリンとアビーロードを発表し、ローリング・ストーンズは最高のシングル『ホンキー・トンク・ウイメン』をリリースし、髪の毛長い、ヒッピーと呼ばれる人々がいて、愛と平和を訴えていた。パリではドゴールが退陣した。ベトナムでは戦争が続いていた」

作家・村上龍の半自叙伝的小説『69 sixty nine』は、こんな書き出しで始まります。この年、1969年に、私たちは竹早高校に入学しました。そう、私たち昭和28年生まれは県界では「花の28（ニッパチ）組」と呼ばれ、北の湖、若乃花（2代目）、麒麟児といった猛者がいて、球界でも、落合、真弓、梨田といった好打者が揃っていました。私たちは、激動の、波乱の、やんちゃな、いろんな形容詞がつきそうな高校時代を送り（詳しくは、この後に続く皆さんの原稿を読

んでください）、そんな“同期”の活躍を横目で見ながら社会人として働くことを覚え、気がつくと還暦の年を迎えていました。

ある者は定年になり、ある人は再出発を目指し、それぞれの「場」で「いま」を生きています。村上龍の小説『69』は、「サイモン&ガーファンクル」のひとりポール・サイモンのこんな詞を紹介して終わっています。

Still crazy after all these years……

まだ悟るには早すぎる。“同期”の皆さんの熱きメッセージをお届けします。

塩見 健

高校24回生（筈72回生）

出雲の国より

本田 正之

高校24回生（筈72回生）

出雲大社は60年に一度の大遷宮が行われており、全国からの参拝者で空前の賑わいが続いております。そんな由緒ある出雲の国に来て早12年が過ぎました。私はこの地において島根県のドクターヘリと防災航空隊のヘリコプター操縦士を交互に担当して働いています。

ドクターヘリとは、ドクター搭乗ヘリを利用しての迅速な救命治療開始を主目的としたシステムです。ヘリ待機場所は出雲市にある県立中央病院の屋上で、操縦士と整備士は1階下で待機します。レシーバーから「〇〇消防から救急要請、ドクターヘリエンジンスタート」が入ると、階段を駆け上がりエンジン始動しドクターとナースを搭乗させ離陸。およそ数十分の目的地を目指します。着陸後すぐに医療スタッフは患者の元へ行き治療開始。必要処置が終わると患者をヘリへ乗せ病院に搬送します。この仕事の難しいところは一刻を争いつつも当然ながら安全確実な運航を要求されるところで、十分な経験が必要です。

防災航空隊とは各県がヘリを防災のために運

航させている組織です。島根では出雲空港を基地として、最大11名搭乗できる機体を一機所有し、隊長以下10名の隊員は消防職員で、県内各地から選抜されます。ヘリの運航は名古屋空港内に本社のある民間のセントラルヘリコプターサービス㈱が行っており、そこから私共（操縦士・整備士・運航管理、ドクヘリ運航も含め総勢13名）が島根県へ派遣されています。活動内容を紹介しますと、

救助活動：たとえば、山で滑落事故が発生し救助依頼が入ると直ちに離陸します。要救助者を発見したら、約20mの高さからロープで隊員が降下し救助するのですが、気流が悪いと操縦に苦労します。最近では、豪雨災害での孤立者救



ドクターヘリの愛機の前で

助や物資搬送を行いました。

急患搬送：日中はドクターヘリが活動しますので、主に夜間片道約30分の隠岐諸島からの患者搬送を担っています。月明かりや漁火があればまだよいのですが、夜の海上飛行は闇夜に吸い込まれそうで何回飛んでも緊張します。

消火活動：林野火災現場到着後、バケットという消火バケツをヘリの腹にぶら下げて、ダムなどで給水し消火します。バケツ底にロープ付き蓋があり、隊員がドアから身を乗り出して火点上空でロープを引き散水します。隊員との呼吸が合わないため命中率が悪いです。

私がこの職に就いた経緯を簡単に書きます。航空業界の皮切りは24歳の時です。現在は無くなりましたが、農薬散布ヘリ操縦士育成機関試験に合格したところからです。大学を出て航空とは無縁の会社で働いていましたが、何か仕事に満たされない思いがあったのと、もともと空への憧れを持っていたので、思い切って受験しました。中等訓練を霞ヶ浦の陸上自衛隊で受け

た後、ヘリライセンス国家試験受験。最初の仕事は農薬散布を行い、関東や東北を飛び回りました。その後、航空撮影、遊覧、取材、山小屋への物資搬送等のヘリ作業経験を積み現在に至っています。

私は好きな空の仕事をこの年齢まで続けられたことを大変有難く思っています。自分の目標を達成する為にはそれなりの努力とタイミングが必要です。そして、その機会を得て力を発揮するのが学生時代の勉強だと思います。勉強がすべて将来に役立つとは限りませんが、しかし少なくとも選択肢は増えます。これは私が勉強していなくて苦労した反省からのアドバイスです。勉強して基本の力を持つておくことが夢の実現に繋がると思います。

出雲周辺は大社だけではなくありません。シジミや夕日の美しさで有名な宍道湖、日本庭園の美しさで評価が高い足立美術館、世界遺産の石見銀山。是非一度島根へおいで下さい。

私に与えられたしごと

ネルソン・田力恵美子
高校24回生（筈72回生）

「剥離強度」「工程能力指数」「定荷重伸張弾性率」……。私の1日はこんな言葉が飛び交っています。高校時代に大の苦手だった化学や、物理の逆襲を受けている毎日です。現在、私は、アメリカの日系自動車関連会社で通訳と翻訳の仕事をしています。工場立ち上げの技術援助のために滞在している日本の技術者たちをサポートする仕事です。17歳の時に思い描いていた60歳の自分とは、ちょっと違いますが、新しい発見がある、やりがいのある毎日です。今まで、企業で働いたことがなかったので、会社とはこういうものなのか、ものを作るとはこういうことなのかと、少しだけわかってきました。

大学を卒業してからは、ずっと外国の方に日本語を教える仕事に携わってきました。今でこそ、日本語教育は一般的になりましたが、40年前には、説明しないとわかってもらえない職業でした。大学を卒業して、初めて渡った国はニュージーランド。将来日本語教育に携わるNZの学生の指導が主な仕事でした。任期を終え、帰国。日本では留学生、技術研修生、修道僧など様々な学生に出会いました。1年後、今度は国交正常化間もない中国に赴任が決まり、最年少メンバーとしてプロジェクトチームに加わりました。中国全土から選抜された学生百人を日本に留学生として送り込む準備のための派遣です。前期6ヶ月は日本語のみ、後半は全国の高校から派遣された各教科の先生方が加わり日本語と並行し

て、大学受験に必要な教科を教えました。何しろ、1年で日本の高校3年生と同じレベルの日本語と学科の知識を詰め込む集中授業で、教師も学生も必死でした。彼らは、全国から、集められた将来のエリート。日本の進んだ科学技術を学ぼうという意欲にあふれ、まるで吸い取り紙のように知識を吸収し、1ヶ月後には、日本語だけでコミュニケーションができるようになっていました。全過程を終えた学生たちは、北京に集められ、オリエンテーションを受け留学生として日本の土を踏みました。一足先に帰国していた教師陣の1人として、中国政府に誘ってもらった背広を着て、ぐっと大人びた学生達を、成田で迎えた私は、深い感動を覚えました。

その後、結婚して、アメリカのオレゴン州に移り住み、大学院に通いながら、大学で日本語を教えていましたが、そのうち、だんだん、植物に対する興味が強くなり、子供達に手が掛からなくなる頃から、ランドスケープデザインの勉強を始めました。外国で日本人であるということを利用しない仕事をしてみたいという気持ちもありまし



市の歴史博物館のデザインも

た。希望に燃えていたのですが、夫の転勤でミシガン州のデトロイトに引っ越さなければならなくなりました。オレゴンとは、気候が違うので、植木の勉強もやり直さなければなりませんでしたが、デトロイトでも勉強を続け、やっとデザインの仕事ができるようになりました。デザイナーとしてやっていくためには、セールスもしなければならず、研修に通ったりして、セールスのテクニックを習ったりと、自分の苦手分野も克服しなければなりませんでした。仕事は楽しく、顧客も増え、このままずっと続けようと思っていた矢先、また夫の転勤で今度はテキサス州南端の町マクアレンに引っ越しました。ここは、アメリカの最南端のひとつで、我が家からは、メキシコ国境まで、5分ほどです。気候は暑く、冬でも、半袖で過ごせる所です。憧れのトロピカル植物が咲き乱れ、鳥や蝶々が世界的にも多い所です。またデザインの仕事をしたかったのですが、デザイン会社

が住んでいる所がない、スペイン語が話せないと植栽をしてもらう人や、顧客とのコミュニケーションがとれないなどの理由で、なかなかうまくいかず、熱帯植物やスペイン語の勉強をしながら何とかデザインの仕事をしようと思っていた時に、日本の企業から、声を掛けられ、そのまま、現在に至っています。通訳の仕事のかたわら、市の児童養護施設や歴史博物館のキャンパスのデザインを手がけました。歴史博物館は、市長の肝煎りで、大きな予算が下り、数ヶ月前にテープカッティングがあり、大げさですが、そしていつも思うことなのですが、この地球の表面に私の好きな模様で「しるし」をつけることができた満足した気持ちになりました。

高校生の時には、想像もしていなかった展開ですが、また、どこか違う土地に暮らすことになっても、その時、その時で、むこうからやってくる仕事を楽しめたらいいなあと思っています。

中国、そして東南アジアで、切り拓く「道」 横田 国臣 高校 24 回生（筈 72 回生）

2010 年上海万博の後、私は中国で複合施設の CM (Construction Management) の仕事を続けています。最初に手がけたのは天津の Aqua City で 2011 年 9 月末に開業しました。次は石家荘の Enjoy City (2012 年 4 月末開業)、そして反日デモの渦中、青島で RockCity の工事を進め、2013 年 1 月末に開業しました。現在は南京の水平方、武漢の群星城の 2 つの複合施設の建築を進めています。建築や内装のデザインはアメリカやイギリスの会社に依頼し、毎日激論を交わしながら仕事を進めています。

青島で反日デモがあった時は、日系スーパーが襲撃されるなど大変な事態が起きて大きなニュースになりました。ちょうどその時、私は青島で仕事をしていました。しかし私の周辺は全く問題ありませんでした。なぜなら中国人のスタッフが事前に襲撃される場所を教えてくれて、そこには近寄らないようにとの情報を伝えてくれたからです。「官」と「民」は大きく乖離している一方、中流以上あるいは高等教育を受けた人は、インターネットやショートメール、チャットによってほとんど世界中の情報を持っています。但し特別な時以外は他言無用というのが慣例になっています。言論の話や政治の話をしてはいけないのが原則です。それでも仕事については、楽しみながら仕事をしようとしている——それがみんなの共通理解です。

現在、新聞でも書かれているように、中国では戸籍の問題が大きな問題になりつつあります。

農村で生まれた人は都市の戸籍に変える事が出来ません。

ドクターになった、起業して成功し沢山の税金を払っている、国家から表彰された、といった事が無い限り都市の戸籍に変更できません。農村の戸籍では大企業に就職する事が出来ず、教育費も戸籍が違うため多く払わなくてはならないし、都市の戸籍の人より安い給与で働かなくてはなりません。ここに不公平感というか問題の根があります。

都市に住む若い人達は日本の若者と同じように生活を楽しんでいます。しかし結婚するためには家と車が必須です。そこで男性は一生懸命働いて高い衣服等は我慢しています。女性はデートも衣服も男性からプレゼントされるので生活を思いっきり楽しんでいます。結婚した後は給与をほとんど全部使って生活しています。このことについて彼らに話を聞くと、銀行に貯金しても物価の上昇が金利を上回っているので、お金は使って楽しんだ方が良くとのことでした。



中国・青島での複合施設の建築も

た。彼らの行動を見ていると多分にラテン的で、つき合うと非常に楽しい人達です。

現在、中国各地で大規模マンション開発が進んでいます。私が現在進めている仕事は中国で10番目に大きなデベロッパーの仕事です。彼らの悩みは、政府から土地を買って（法律的には買えないので借りる契約です）マンションを造って販売しても、瞬間的に儲かりますが、その後は管理費しか儲からない。会社として将来的に利益を上げるためにはどうしよう。子供達に会社を引き継いでいくために、利益を常に見込めるようにするにはどうしよう、という事です。

そこで自分たちが開発したマンション群の中で交通の便の良い所に複合施設を造って、永久的に利益が上がるようにしていきたい、という発想から複合施設の仕事が多数発生しています。この現象もあと5年もすれば、日本と同じようにオーバーストアーになって厳しい状況になると考えています。

今はZARA、C&A、H&M、GAP、UNIQLO、無印、等インターナショナルテナントを誘致するのに必死になっていますが、デザインだけでクオリティで劣るインターナショナルテナントはいずれ淘汰されていく運命にあると思います。日本が経験した事と同じです。そこで、新しい複合施設の考え方を指導しながら仕事をしています。

私はあと5年ぐらひは中国で仕事をしていても良いと考えていますが、「限界」は近いと感じてい

ます。あまりにも格差が大きいし、政治と暮らしに乖離が大きいです。今後、どのような形になるか予測不可能です。

そこで次はマレーシアとベトナムを含めて東南アジアが私の仕事場になると考えています。ベトナムは、まだ中間層が育っていません。マレーシアは中間層が出来つつあって元気が出ています。昔、フランスやドイツ、スイス等の仕事をしました事がありますが、東南アジアは日本人にとって仕事がし易いです。

私もいつまで働く事が出来るのか、「年齢の限界」も近くなっています。そこで将来を見通した上で、若い人達のために、如何に日本の利益に貢献するかを考えると、東南アジア圏を豊かにする仕事を最後にしていくことが必要だと感じています。

海外で仕事をする、言葉の壁、慣習の壁、食べ物の壁（毎日暮らすときついですが）、考え方の壁、いろいろな障害があります。歳の問題も体力の問題もあるかもしれません。しかし、私達は、もっと頑張れるはずで、世界に向けて若い人達に細くではあっても「道」を付ける仕事をしていきたいと考えています。将来の自分の収入や暮らし方を考える以前に還暦になった今、若い人達に世界と勝負する道を如何に作って行くかを徹底的に考えて「道」を造る行動をしていく事が、私達の使命ではないかと考えています。昔を懐かしむのも良いですが、これからは如何に前に進むか、みんなでやっていけると良いと考えています。

タイでの起業はいかがでしょう？

長谷 ヒロ子

高校24回生（筈72回生）

現在、私はタイのバンコクに在住し、19年ほどになります。家族はタイ人の夫と息子です。この息子が日本で保育園を卒園し、明日から小学生という、4月1日に、こちらに引っ越してきました。息子は一言もタイ語がわからない中で現地の学校に入学し、学校でただ押し黙っている日が続いたようですが、いつの間にか新しい環境に慣れてくれました。

幸い、バンコクには日系企業の進出も多く、邦銀から始まり、その後、職場は変わりましたが、ずっと仕事をしてきました。ただ、その分、子育てでは一苦労しました。夫の実家も他県で、周りに頼れる人もいなかったの、学校の長期休み等の折はできるだけ日本に連れて帰り、実家近くの小学校に通わせてもらったり、6年生くらいになると、泊り込みの英語のキャンプや海外の語学研修に参加させたりと、とにかく、日本のような学童保育もなく、また、家にメイドさんを雇うほどの

経済的ゆとりもなく、夫婦で代わる代わるそれぞれの職場に連れて行ったりと、今考えると綱渡り的に預け先を探していたような気がします。

10年前に夫が独立し、現在の法律事務所を始めました。総勢10数名の小さな事務所ですが、顧客の大半が日系企業となり、さらに、日系企業の進出の勢いが衰えないせいもあり、なんとか持ちこたえています。

一緒に働いているのはタイ人ばかりで、その気質は、急がない、あわてない、あせらない、と申しましょうか、クライアントからの期限に間に合わない

のではと、日本人感覚でいろいろありますが、よく言えば自分のペースを守るということで、最終



パタヤへの家族旅行で

的には、仕事につぶされないというか、ある意味、うらやましい感じもします。

私の仕事は、日本のお客様と現地の弁護士の間で、連絡・交渉・報告等のコミュニケーション面でお手伝いする、あくまで補助的なものですが、当地では、法律事務所を含め、多くのサービス業に日本人窓口が置かれ、また日系企業には通訳がおり、それだけ、日本企業の進出に伴い日本人向けの各種サービスが発達しているということの証明かもしれません。

日本に比べたら、文化面・健康面での公共インフラはまだ不十分で、遠くまで出かけて、かなりの料金を支払わねば何もできません。やむなく、自助努力で、庭で木々を眺めたり、早朝に咲く蓮の花を見て癒されています。ごくたまに雨上がりの暗い庭を、蛍が数匹、光の曲線を描きながら戯れる様子は風情があります。庭のバナナやマンゴー、パパイヤも季節になると実をつ

け、これら南国の草木の成長の早さを見て、その生命力に元気付けられています。

もう、退職も目の前です。カルチャースクールも市民(区民)講座もゲートボールもないこの国で、タイ語も十分に話せない外国人が、どうやって、楽しい老後を過ごせるのか、すぐには答えが見つかりません。

日本の皆さんは、きっと素晴らしい業績や趣味、その仲間をお持ちでしょうね。60代以降はこれまで築いたものをさらに発展されるのでしょうか。

この国では、趣味を持つという発想は少なく、その方面の文化も発達していません。異国で老後をいかに生きるかの模索は、60代のチャレンジです。

これから、タイにいらっしゃる機会のある方、その折にはお声をおかけください。チャオプラヤ川の夕陽を眺めながら、シンハビールを注ぎ、語るも良し、タイでの起業を考えている方がいらっしゃれば、そのお話を伺うもよし。

次代を担う人創り

大橋 玲子

高校 24 回生 (筈 72 回生)

竹早高校時代は「自由だったなあ」と思う。もちろん多くの制約はあったが、学生運動の余波で1年生の半年間は授業がなく、クラス替えも無くて気楽な2年生、何故か受験のプレッシャーもあまり感じなかった3年生と、同じA組で過ごした3年間だった(竹早は受験校だったはずなのだが)。

高校に入学して成績が下がり、優等生顔をしている必要がなくなった私は、肩の力が抜けて解放感を感じていたし、周りを広く見回すことができるようになったのかもしれない。

現在は、青年の人材育成を目的とする国際交流の財団法人で事務局長を務めているが、この仕事で最も必要とされるのが人を見る目と視野の広さである。私の力が足りているかの評価は別として、人に注目し視野を広げる、との意識を強く持つようになったのが竹早時代からであった。

中央大学法学部の政治学科から自民党本部職員という少々変わった職業についた私は、それ以来全て「人」に関わる仕事をしてきた。政党職員、着

付けの教師、アメリカの交換留学組織の日本責任者、そして今は「内閣府の青年国際交流事業」を中心として国が行う青年国際交流事業を扱う

財団の事務局長。

私は、自民党時代に「青年の船」(当時総理府の青年国際交流事業)で、日本青年約250名及び約60名の外国青年と客船「にっぽん丸」に乗って、インド、スリランカそしてミャンマーに訪問するという事業に参加したのがきっかけで、国際的な分野に目が向くようになった。そして、事業後の社会活動が続けるなかで、自らの体験も含めて「日本が国際的に展開していくには、国際社会に対応できる人材の育成が急務であり、その育成場面として青年国際交流が極めて効果的である」と確信するようになった。

あまりに情報量の多い現代においては、多くの青年が、実体験のないまま物事を知ったような気になり、自分の未熟さに気がつかないまま社会人になっていると思う。若い時に外国文化の壁にぶつかり、他国の青年とのディスカッションで通用しない自分を知るといような体験は、自分の未熟さを認識し、母国である日本を考える最良の場面となる。

「強い青年を育成するために如何なる取組みが必要か。」こんな問いかけが必要となっているのが、今の日本である。青少年層の様々な問題が噴出してきているが、「日本は長い間青年施策を軽んじてきた」という事実を認識している方は、どのくらいおられるだろうか。少子高齢化社会と言われて久しいけれど、だからこそ青年層の活性化に力を注がなければならなかったはずなのだが、実際は高齢者施策ばかりが叫ばれ、次代を担うべき青年への施策予算は削減されている。元気な国を創りたいならば、次代を担う人創りを疎かにしてはならないはずなのだが。

この事実を見つめつつ、非力ながら青年育成の分野を青年国際交流事業を通じて担っていこうと日々務めている。



講演会にて

高校時代が私に残した痕跡について

山本 裕子

高校 24 回生（筈 72 回生）

正直言って、入学した時点で竹早にあまり期待はしていなかった。なにしろ、入りたくて入った高校ではなかったから…老母は、いまだに「成績が悪かったから竹早に回されたんでしょ」と言う…違いますよね—!!（学校群制度ってなんだったんでしょうね??）

だから、高校時代は大学に入るまでの通過点としか思っていなかったし、平板で退屈な 3 年間だろうと踏んでいた。

しかしどうだろう…1 年生から 2 年生にかけては退屈している暇など無いほど、日々何事か起こり、変化に富んだ面白い高校生活だった。だいたい、時代そのものが変化に富んでいたし…がむしゃらな高度成長期に生じた歪みを修正し、リセットしなくてはならない時期だったのだろう。60 年代から 70 年代へと時代が変わりつつあると感じて、ちょっとワクワク感のあった時代だったような気がする。

一番印象に残っているのは、何と言っても全学ストライキ。親は「試験をやりたくないからストライキするんだろう」と言っていたが、どうして、私たちは理想の教育とはどんなものか？さらにそれを具体的に実現するには、どんな方法があるのか頭が痛くなるほど真剣に考えた日々だった。

しかしそれによって学んだことは、誰もが納得する理想などあり得ないということと、机上の空論では現実を変えられないということだろうか。ちょっと苦い大人の自覚というやつだったように思う。

そんな紛争を経験してみて、あらためて思ったのは美術の小野先生の凄さである。ゴッホのタンギーおじさんと棟方志功を足して 2 で割ったような風貌の、暖かくて穏やかな小野先生のどこにそんな反骨精神が根付いていたのだろう？何しろ紛争など始まる前から、先生の授業は自由放任主義だった。美術の時間になると、うちのクラスの男子どもは校庭に飛び出して行ってサッカーなどやっ

ていた。ごくわずかな人間が美術室で、石膏デッサンなどして…確か成績もみんな一律で良い成績をもらったような気がするが。

この授業形態はおそらく紛争前の竹早高校では、批判やダメ出しに晒されていたのではないだろうか？その方針を維持するのは並大抵のことではなかったろうと、後からつくづく思うようになった。やはり戦争中に自由を奪われる経験を持っている世代の人達の、自由への希求はすこぶる大きかったのだろうな、などと推測している。

そのお陰なのか？私は自由至上主義者になったように思う。自分の価値体系の中で、最も高い価値を持ち何物にも代えられないものは自分の精神の自由だと思っている。

私は芸大を出てからずっと現代美術と呼ばれる狭い世界で作家活動をしている。と言え聞こえは良いが、アルバイトで糊口を凌ぎ、売れもしない作品に人生を注ぎ込んでいる。しかし、その作品でさえ私の精神の自由を束縛するような存在になったとしたら、捨てることになるだろう。真の自由とは、あらゆる自身の欲望から解放されることで、いわば解脱することに他なるまい。なーんて言っても、おいしいものとお酒には目が無いし、いまだに朝は 10 分でも 5 分でも余計に寝ていたいし、何が解脱だ、図々しい！！と怒られそうな、私の実態だが…。

ま、要するに我慢ということをしな、我儘な怠け者だったちゅうことかもしれない。こんな人生 60 年も自由気ままに生きてきた、元祖ニートの老後は暗澹たるものだが、精神の自由のおかげで能天気な作品を作り続けていけそうである。（笑）



小野政吉画伯
（～2004/
竹早高校教諭）



タンギーおじさん



作品と私

ちいさな幸せの種

小笠原 典子（旧姓 鏑木）

高校 24 回生（筈 72 回生）

子どもが生まれるときのあの幸せの感触をおぼえていますか。

あまりにもかよわくて、じぶんで立つことも座ることもできない。できるのは声を出して泣くことと、吸い付くこと。人生にとってこれほど神秘にみちた体験はありません。私自身だ、いぶ昔のこと

で忘れかけていましたが、最近、孫の誕生でまた新生児の感触を思い出させてくれました。

だ、いぶ昔にさかのぼりますが、私は、保育士の仕事をしながら、幸運にも三人の子どもに恵まれ、子どもを育てたいへんさと同時に、楽しさを十分に体験することができました。私にとっての「ちいさな幸せの種」は子どもでした。三人の姉弟は、いっしょに遊んだり、ものを取り合ってけんかしたりしながら、大きくなりました。

子育ては植物を育てるのと似ていて、まいた種

はやがてちいさな芽をだし、雨風にあたりながらも負けずにたくましく育っていきます。雑草のように根をはり強く育ってほしい。これが我が家の唯一の教育方針だったかもしれません。

当時世の中は、やれお受験だ、英才教育だと子どもを親の価値観でしぼりつけ、何事も先取りして急ぎすぎしていました。競争社会で生き抜くためには、何事も人より先にスタートをきることが求められていたからです。

私は、幼児教育を学んでいましたので、乳幼児の成長発達には順序があること、ある段階から次の段階に移行するには十分なレディネス(準備段階)が必要であることを知っていました。なんでも早く与えるのではなく、じっくり時間をかけて機が熟すのを待ちました。そうすると、子どもの個性もみえてきました。

あせらず、友だちとの遊びや運動など子ども時代にできることをしっかりさせてやりました。いろいろなことにつまづきながら、たくさん失敗しながら多くのひとに支えられて、それぞれが巣立っていきました。



長男夫婦、孫と愛犬

誰しもが感じているように、いまや幸せの価値観が多様化し、いろいろな生き方が実現できる個性の時代になろうとしています。そこでじっくり子どもの個性を育むことこそが大切になってきました。私の時代にくらべればある意味生きやすい時代です。現在は三人ともそれぞれに、結婚独立して家庭をもち、自分らしい個性を生かして一生懸命生きています。

竹早高校を卒業した長女は結婚して、子育てで真っ最中です。子育てを困難にしている社会の現状を憂い、父親の育児参加や、母親の働きやすいライフワークバランスについて話し合ったりしています。私の今いちばんの幸せはと聞かれば、娘と人生のいろいろを語り合うことかもしれません。

私は、もう還暦をむかえ、子どもを育てること以外、世の中のお役にたてるようなことはとくにしていませんが、今は高齢の母の面倒をみながら、時々孫といっしょに出かけるのを楽しみにしています。子は親を見て育つ。そう自分にいいかせながら。

44 年前の仲間たち

村上 精一

高校 24 回生 (筈 72 回生)

ここに一冊の古ぼけた手作りの冊子があります。日付は 1969 年 8 月 31 日、そして製作者は我が母校竹早高校 7 人の仲間たちです。先ずはこの冊子との出会いからお話します。

今でも当時仲の良かったクラスメートとは交流が続いていますが、年末のミニクラス会で、その中の一人が「今日は面白いものを見つけたので持ってきたよ」と言って、古ぼけた分厚い冊子を取り出しました。見た瞬間は「何、これ?」と思いました。ページをめくってみて 40 数年前の記憶が少しずつ蘇ってきました。それは、高校 1 年生のときの地理の夏休みの宿題で、クラスメート 7 人のグループ研究でした。内容は文京区の郷土調査で、7 人が分担して史跡を見てまわり、写真を撮り、あとは図書館で調べて結果をまとめ、最後に糸で綴じて 1 冊にまとめたものです。100 ページ以上に及ぶ大作です。

一体何が書いてあるのか、恐る恐る興味津々でページをめくってみました。史跡を歩いて回ったようで、モノクロの写真と調査結果が自筆で書いてあ

ります。面白かったことは、単なる史跡調査ではなく、調査した人のコメントや意見が書かれていたことです。先ず、巻頭言で「この研究は地理の宿題ということで、角川キヨ教諭は通知表の評価をするために考えたそうですが・・・」と書いた横に、先生(通称地理ババ)が赤鉛筆で「そのように断定されては迷惑です」とコメント、早くも火花が散っています。また、郷土研究の目的の意味をはっきりさせるために、国語辞典を引用して「郷土：故郷すなわち自分の生まれた土地」ならば「自分の生まれた土地は吉田産婦人科だ」と書く始末、当然また赤鉛筆で「何と理屈っぽい人たち!」と呆れられています。

それでも「キリシタン坂」の考証は図説入りの凝ったものだったので、コメントも「面白い考証でした」と褒められています。さらに傑作なのは「妻恋坂」の考証で、「真説妻恋坂物語」という読み物ですが、奇想天外な展開には思わず吹き出してし



グループ研究の表紙



中身はこんな感じ

まいました。流石に先生もノーコメントでした。

こんな具合の支離滅裂なレポートですが、最後にグループ7人の名前が記してありました。それがまた滑稽で、唐傘連判状のように放射状に書かれており、ご丁寧に拇印まで押されていました。何故そのようなことをしたのか思い出せませんが、おそらく遊び心と友達はみな一緒に序列はつてくたなかったのかもしれない。

また、表題がユニークで、「REVOLUTION」と英語で書かれていました。つまり、「革命」ということです。1969年と言えば学園紛争前夜でもあり、高校1年という多感な時期からして、何かを変えたい、何らかの方法で自己主張したいという思いから、このようなタイトルになったのだと思います。

この冊子を見て改めて感じたことは、まず、夏休みの宿題を楽しんでやっていること、さらに言われたことだけでなく自己主張が垣間見えること、

そして、知り合って数ヶ月なのに友達としての絆が強いことです。それは、40年以上経っても当時と変わらない心情で語り合えることから判ります。今回、このレポートとの再会で、高校時代の友人は一生付き合うに値するものだということを痛感しました。

もうひとつ、人生は面白くないことや我慢することばかりですが、やり方次第、考え方次第で面白くも出来るかなということを感じました。その根底にあるのは、知らないものに対する興味関心、探究心であり、常に自己主張、自分ならこうするというような自分の意志を持つことが大切だと再認識させられました。そして、何よりも良かったのは、還暦を迎えるにあたって、もう一度生まれ変わった気持ちで頑張ろうという「わくわく感」にさせてくれたことです。思いがけず映画「20世紀少年」のような貴重な経験をさせてもらったので、皆さんにご紹介しました。

竹早の頃

豊島 良行

高校24回生（筈72回生）

素人考えなのだが「記憶のフック」のようなものがあるかな、と思っている。例えばこうだ。「あれはいつのことだったか。確か〇〇に住んでいた頃だから少なくとも昭和の話だ」といった具合だ。この場合のフックは住んでいた場所だ。何か思い出すと、とりあえず時期を特定したい。それを絞り込むものに「記憶のフック」と名付けてみた。

「昔のことはよく覚えているのに最近のことが思い出せない」。病気の話ではないが、よく聞く。こんなことを考えてみた。十代、4つの学校に在籍する。小・中・高・大学である。たった10年を区分するに十分である。「あの修学旅行の時のことだ」となればかなり特定される。二十代、人にもよるが大学卒業、就職、結婚、子の誕生と人生のイベントが目白押し。探る記憶も多いが、時系列も明確だ。さて三十代、四十代以降へ進むとあやしくなってくる。「記憶のフック」が急激に減る。いや決して日々を無為に送っているのでもないのだが。

竹早高校時代。私たちの学年は多くの人が書かれているように「記憶のフック」が特に多い。何しろ過ごした校舎が3つである。旧校舎、改築中に通った新宿高校、そして新校舎だ。情景を思い出せば、時期も推測できる。しかし一方で多くの高校生が経験する「クラス替え」がなかったのも、その辺の学年ごとの記憶はあいまいだ。新宿時代、新宿駅までの通学路は決められていたが、足はそれほど従順でもなかった。朝が好きだった。夜の喧騒が止み、人通りの少ない中を学校まで歩いて行くのは、

まだ盛り場に縁のなかった私にはとても新鮮だった。夏の夕立にあったことも何故かよく思い出す。駅南口からの坂道をそれこそずぶ濡れになりながら走り下りた。覚えているのは妙なことが多いのかもしれないがこの頃、いろいろなことを考える日々であったことは間違いない。

小石川に戻ってからは文化祭だ。この文章を書くことになって思い出したのだが、新校舎で2回文化祭を経験した。3年生の文化祭初日、どうしても早朝に登校して準備がしたかった。かなり高いハードルがあったのだが、級友の一人が宿直職員（そうであったかは不明だが）に掛け合った。「自分たちの最後の文化祭だ。何とか認めてほしい」。意気に感じてくれたのかはわからないが、「キミたちのクラスはOKだ」と言ってくれた。なんだかとても嬉しく、漲ってくるものがあつた。私達の3年D組はジャズ喫茶(今風に言えばライブハウスか)を企画した。人材は豊富で、自画自賛だがなかなかの出来であつたと思う。その級友は家業を手伝っていたこともあり、私などとは違い妙に大人びていた。そのせいで生き急いだのかはわからないが、10年ほど前に逝ってしまった。

最近、大学時代の同級生達に卒業後初めて会った。いわゆるマンモス大学であつたせいかな正直なところ記憶が少ない。数時間話していても全く思い出せない男もいた。それに比して竹早高校のクラスメートは名簿を見ていると一人ひとり鮮明によみがえってくる。「記憶のフック」は数だけでなく、深い。



秋葉原で生まれ 米子育ちの パーソナルモビリティ『ユニモ』

竹内 幹夫

高校 24 回生 (筈 72 回生)

小さいころから車が大好きで、小学生の時はエンジン音を聞いて車名を当てて遊び、中学では往年のブルーバード SSS に乗りたいが余り洋服の販売詐欺に騙され、竹早高校時代は授業をさぼってモーターショーにも行ったこともあった。しかし、大学は親の血を引いたのか、もう一つの趣味が抜ん出て電気系に。大学院で日産自動車の奨学金があることを知り、再び軌道修正し、満を持して日産自動車に入社、自動車の設計に携わることができた。しかし、20 年務めた日産自動車を飛び出しエンジニアリング会社を設立。

こんなことを回想していると、自分の原点が見えてきた。ものづくりに関わっていれば楽しいだけのバカだったのだ。

日産自動車を飛び出したのは、自分のオリジナル商品を世に出すことが目標であった。その志は約 10 年間鳴りを潜めた。そこから脱出の道を切り開いてくれたのが私の母だった。母が介護施設にお世話になるようになり、否が応でも介護現場の厳しさを目の当たりにすることになった。スタッフの人数が限られているから、介護を受ける人の行動は束縛され、外に出ることはほとんどない。施設内で笑顔の中にも寂しそうな目をしている母を連れ出して散歩に出たとき、ゆっくりで休み休みだけど一生懸命歩いていた母の笑顔は施設内にいるときの表情とはまるで違っていった。

日本は前期高齢者以上の人口が約 3000 万人、障害者人口が 750 万人で、どう考えても介護する側の人数が足りない。現状ですら高齢者、障害者の行動は制約されているのに、高齢化がさらに進んだらと思うと、居ても立ってもいられず、自分の経験を活かしたものができないかと考え始めた。

車が好きで自動車の設計に携わったのだから、自動車そのものを開発するのはさすがに荷が重いが、モビリティ (移動手段) で役立つものを開発したかった。

日本の電動車いす、シニアカーは、日本人の性格の影響があるのかもしれないが、楽しそうに利用して、自由に外出しているイメージがない。海外の同様な製品は、デザイン、性能面で、よりアクティブな行動をするためのものに見えた。

そうだ、どこでも行ける車いすを作ろう！名付けて『どこでも車いす〜！』。電車も介助板無しで乗れる

ようにすれば、事前予約しなくてもいつでも気軽に電車に乗れるし、砂利道、凸凹道、雪道も走行できれば、場所を選ばず自由に外出できると確信した。

ものづくり環境には最適な秋葉原に会社を移し、開発を始めた。従来の車輪では段差、溝、悪路は難しいと判断し、クローラーベルトによる駆動とした。要は戦車である。

開発開始 1 年後に東京ビッグサイトで行われた国際福祉機器展に 1 号車を出展した。

しかし、段差で旋回時にベルトが外れ、展示ブースで冷や汗の連続。この手の開発先駆者からも、隣のブースからも冷やかな激励をもらい、悔しい思いをした。ちょっと酒臭い厚労省のお役人に、3 分で説明しろ！と言われ、必死に説明したことも有ったが、今では良い思い出だ。

そこからすべてを見直し、設計を一新して 2 年目の挑戦。東日本大震災後の展示会だったこともあり、防災コーナーにも出展要請があり大盛況。会場の試乗コースも独占状態だった。マスコミにも報道され、会社周辺で走行評価をしていたこともあり、秋葉原限界でもちょっと有名になりました。でも何よりも嬉しかったのは、歩道の段差で評価していると、遠くのほうから走り寄ってきて、大丈夫ですか！？と声をかけてくれた方が大勢いたことだ。

重度の障害を持たれた方が試乗して、キャッキッと声を出して喜んでくれて、逆に元気をもらった。また、秋葉原で撮った写真を持って、展示会場に来ていただいた方もいた。

ユニモは、このように秋葉原で育ったが、大きく羽ばたくには資金力が不足していたため 2012 年の展示会でも販売に踏み出せず、知り合いの資本家にお世話になり、鳥取県米子市にあるナノオプトニクス・エナジーに移り、生産、販売することにした。

モデルも 2 機種に増え、世の中に出て『トレたま』(テレビ東京：ワールドビジネスサテライト)でも放映された。

本格的販売はこれからだが、世界で唯一の性能を持つ歩行補助移動具で、パーソナルモビリティとして多くの方に利用していただくことを目指している。左右独立サスペンションのクローラーベルト方式により、段差でも転倒することがなく、しかも 10 センチの段差、15 センチの溝も乗り越え、種々の悪路で走行が可、半径 60 センチでその場旋回ができる。ユニモは Unique Universal United な Mobility として名付けた。階段を上るユニモ、畳でも使えるユニモ、自動走行のユニモとやることはまだまだたくさん有る。



ユニモに乗って

第6回 箒会セミナー報告

はじめに

『話し手』とともにセミナー開催を支援する理事、PTA、竹早高校の40名以上の皆様のご協力を得て、2013年のセミナーは土曜・特別、両方のセミナーを行うことができました。本年の報告では、実施概要を報告するとともに、従来との変化点や今後の進化を考えます。さらに、今年は、箒会の活動としての位置づけにも賛同の声がありました。この点にも触れたいと思います。会報 No.20～No.24 号に、これまでの実施の状況・注目ポイントを報告していますので併せまして、参照いただけたら幸いです。

1.実施状況と本年のチャレンジ

学校の教師・生徒は年間行事、授業スケジュールの中で忙しくすごされています。セミナー等の準備に割ける労力も限られます。『話し手』やサポートに回る理事についても忙しさは同様ですが、この状況を打破するには年間の工程を共有し認識を合わせて、例年通り運び、なるべく学校に負担をかけない形で進化させて実施することが本年の箒会セミナーの実施目標でした。下記に本年の実施したポイントを示します。

土曜セミナー

概要：大学受験の世界では理系・文系が厳然と分かれているが、社会の理系的な仕事の最前線では、理系的な素養と文系的な素養の両方が役に立つことが多い。「価値を生み出すのが理系の仕事」というところから話をスタートし、新しい切り口で実際の人生で直面するシーンなども示しながら参加者との質疑を通して、じっくりと「リアルな仕事の世界」を共有する機会となることを目指した。本年度のタイトルは、『理系進路から見た“理系的”勉強、“文系的”勉強の役立ち度とは』とした。

実施の形態：昨年同様にチラシを学校から配布。6月15日、完全に自由な参加として実施した。学校行事や関連外部行事などの日程に配慮した。

参加者の増加：本年は生徒と保護者で29名の参加があった。興味ある人に参考になった可能性が高かった。



特別セミナー

概要：さまざまな仕事、話し手のキャラを切り口に、キャリアパスをひとりひとりの目線で捕らえてもらう機会の提供。14講座20個のセミナーを実施。
コマ数/実施形態：7月10日水曜日3&4時限目で、総合学習の一環として実施した。

事前のガイダンス：6月3日、どのような問題意識で、なぜセミナーを実施するか、どのような内容が準備されているかなどを、ロングホームルームの時間に、剣道場にてライブで実施した。

本年の特別セミナー実施枠：生徒の受講希望については全て第一希望で満たすことができた。生徒の希望は例年通りかなり多様であった。

場所：2年生の教室を中心に、化学室、物理室、音楽室、書道室、生徒相談室などを使用した。

実施雰囲気：竹早高校の卒業生である『話し手』が自然な流れで学校で『お話し』できる貴重な機会。環境作りはうまくできたと感じられた。自然に実施できる雰囲気の醸成もできていると感じた。＜学校にご努力頂いたと拝察致します＞

ビデオ撮影：セミナーを撮影しています。

新機軸1/WEBのさらなる活用：箒会としてサイトを準備して、生徒が希望や話し手への質問を事前に入力できるようにした。竹早高校の“情報”の授業の一環で対応いただいたので、ほぼ理想に近い入力の運用がなされたように思われる。(次年度は同様に対応が可能かどうか)

新機軸2/ガイダンス時に即アンケート：挙手により概算人数を確認して、セミナーの科目をWEB上に設定した。これにより非常に効率良くセミナーを設定でき、セミナー数変更に起因した従来のトラブルを回避。

新機軸3/午前での実施：3時限目、4時限目の実施のため、2時限後10分の休憩時間での対応となった。午後と違い都合がつきにくい話し手もおられた。(ただし午前でよかった方々もおられた)

→上手な準備の仕方が求められるが、午前の実施も基本的にOK。



2.それぞれのお話 ～ 現役卒業生のパワーの結集による 14 講座 20 コマのセミナー

以下で本年度のセミナーの話し手の活躍の様子や、実施の内容をご紹介します。

生徒へのアンケートは、何年か一度にすることとして、本年度は、前年度の分析を基にセミナーを準備しま

した。

希望の多かったお話について、金杉さん、前田さん、佐藤さん、鈴木（克）さん、松坂さん、水田さん、の6名の方々に、45分の2コマを快く引受けて頂きました。

番号	話し手	内容	サブタイトル・主な内容
1	金杉憲治（筈 78 回生） 外務省本省審議官	国家公務員の仕事 （外交官の仕事） （国際機関の仕事）	・ 国家公務員、外交官、国際機関の仕事とは ・ 国家公務員になるには ・ 苦労、やり甲斐
2	大原章博（筈 77 回生） 東京都 中学校副校長	中学校教師の仕事	・ やりがい、大変さ、教師に期待されること大学から教師を志すまで ・ 進路決定までに考えたこと、きっかけ ・ 教師生活で強い印象を受けた出来事
3	泉美知子（筈 67 回生） 一級建築士 インテリアデザイナー	建築・デザインの仕事	建築設計の仕事とは ・ 主宰する工房の作品を見ながら仕事の内容、流れを紹介 建築関連の資格と仕事について ・ 建築士（意匠、構造、設備）、インテリアプランナ、インテリアコーディネータ ・ 建築設計の醍醐味（と苦労）
4	鈴木陽子（筈 77 回生） 音楽家	音楽家の仕事 ” 夢を追い続けて・・・ ”	・ 音楽への想い・仲間との出会い・夢の実現・新たな目標に向かって
5	前田丈志（筈 78 回生） 出版社勤務	出版社の仕事 ～” 本 ” を出す仕事	本の出版・編集の仕事はIT社会においても価値ある仕事 ・ 今、出版の仕事とは？ どんな能力・適性が必要か？ ・ 仕事の面白さ（と苦労）
6	佐藤哲夫（筈 77 回生） 商社 事業部長	商社の仕事 ～その魅力と意外な仕事	商社の仕事の内容、必要な資質 ・ 商社に進むなら（専攻、語学力、コミュニケーション力、就職まで） 商社員としての生き方 ・ 感動したこと、大変だったこと、アドバイス
7	小林勝已（筈 77 回生） 建設会社 技術センター所長 兼環境エンジニアリングセンター長	エンジニアの仕事 ～理系エンジニアの世界	建設会社の仕事、最新の建設技術の紹介 キャリアパス（大学および会社に入ってから） 経験したこと、苦労したこと & やりがい 理系希望者へのアドバイス（Vision&Work Hardが大事）
8	仲尾啓子（筈 77 回生） 化学会社 分析グループマネージャー	女性研究者・技術者の仕事 ～化学企業の場合	分析の仕事とは ・ 女性に適した側面とは 女性研究者としての生き方 ・ 家庭生活と仕事・女性に向けた仕事・感動したこと
9	山本剛和（筈 88 回生） 獣医師	獣医師の仕事	・ 仕事の様子や社会でのさまざまな活躍の場の紹介 ・ キャリアパス ・ 経験したこと、苦労したこと & やりがい ・ 希望者へのアドバイス
10	飯塚均（筈 77 回生） 鍼灸治療家 エステティシャン講師	治療家の仕事 （美容エステ / 鍼灸指圧）	どうしたらエステティシャンや治療家になれるか 誰にでも道は開けている 関係資格を活かすには エステティシャン、スポーツトレーナー 仕事の楽しさ、つらさ…女性の志望者増（美容エステティシャン）
11	鈴木克洋（筈 88 回生） 航空会社勤務	航空会社の仕事	・ グローバルビジネスとしての航空会社 ・ 大学教育の内容と、航空会社の仕事、周辺（グループ会社） 印象的な出来事 ・ 仕事の進め方、苦労、やり甲斐 ・ 航空会社を目指すには
12	松坂克雄（筈 77 回生） 広告代理店勤務	クリエイタの仕事	広告コミュニケーションの仕事とは？ 手がけた CM ・ 劣等生がクリエイタになった理由 ・ 楽しいところと、大変なところ ・ クリエイタの報酬
13	秋元哲夫（筈 77 回生） 国立がん研究センター 研究開発部長	医師／医学研究者の仕事	・ 医者を目指すまで、自分が医学部受験に目覚めた瞬間とは ・ 医学の専門分野の特徴 ・ 放射線医学（がん治療）とは、そのやり甲斐と困難さ ・ 米長永世棋王（将棋）との出会い・主治医として
14	水田茂夫（筈 71 回生） 資産運用会社経営	留学と海外への就職	留学を考える 外国の会社に就職をする 外国に永住するには 日本人と外国人 英語だけは勉強しよう

3.生徒へのアンケート結果から

本年度も実施意義について、96%もの高い支持率を生徒から得ました。その他の意見では、すでに職業を決めている生徒は聞く必要がないとの記載もありましたが、極めて多様な生徒の感性とニーズ。それを注意深く見ながら、生徒の要望に向き合うことは今後とも課題だと思います。ある意味で、マスプロ教育の根本にも関わるチャレンジの領域かもしれません。参考度も満足度についても、昨年とほとんど変わらない、かなり高い水準でした。ただし、満足度の低い生徒も少数います。個別のケア・理解の助けとなるフォローアップができれば、さらによいと感じます。

興味あるセミナーの数

一昨年、興味あるセミナーの数を見ると2個以上と回答した生徒が80%でした。昨年度は開設したセミナーの数を絞ったせいか、少し下がり75%に低下していましたが、今年は81%に復帰しました。セミナー数を絞りこみながらも興味を維持できたことは、良かった点です。ガイダンス説明会で意義・目的を説明していることも寄与しているかもしれません。「卒業生である話し手のキャラ」で生徒が選択肢から選ぶ考え方は、今後とも軸になると考えます。

4.竹早高校2年生の感想から

アンケートに記載された生徒の生の声を、紙面が許す限り紹介します。なお、改善点のヒントも、生徒への質問では聞いており、すべては次年度計画には役立っています。

- 進路決定に役立つと思うので良かったです。
- 貴重な時間を割いてわざわざセミナーに来て下さった方々に感謝するとともに、この場を設けてくださった簗会、教師の方々にも改めてお礼を申し上げます。
- 実際に働いている方に仕事の話を聞く事でその職業についてよく知る事が出来たし、将来どんな職業につきたいか考えるきっかけにもなったので良かった。
- もっと幅広く、違ったセミナーもあったらいいなと思いました。ありがとうございました。
- 今回のセミナーでさらに自分の将来を考えるようになりました。
- 自分のやりたいことをちゃんと見つめて、誤魔化さないうで夢をかなえることを教わりました。
- うまく言えないけど、わたしもやりたいことを夢のままで終わらせないようにしたいなと思いました。
- 職業選択に際してとても参考になったし楽しかった。時間をかけて準備して下さった皆さんに感謝します。
- 一度のセミナーでもっと多くの方の話が聞きたかったです。
- たくさん参考になることを聞くことができ、勉強になりました。

- とても面白い企画でした。ありがとうございました。
- このように竹早の先輩方からいろいろなお話が聞けるのは本当に勉強になると思うので、セミナーを受けてよかったなと思いました。
- 今回はきていただきありがとうございました。
- また機会があればよろしくお願いします。
- 受講できるセミナーの数を増やしてほしい。
- 今回はわざわざ後輩のために時間を割いてお話をしてくださり、感謝します。お話は自分の将来のためになるものばかりでした。このような機会があったことを嬉しく思います。
- セミナーでどんなことが話されるのか、事前にもう少し詳しい資料が欲しかった。
- 忙しい中ありがとうございました。興味深い話や難しい話もありましたが楽しかったです。
- 世の中には自分が知らない大きな職業があってその一つ一つを知ることができて良かったと思います。
- 竹早のいろいろな先輩から職業の話をきけるのはとてもいい体験だと思います。進路を考えるにあたって参考になることも多かったです。
- セミナーは聞いたことのない話しばっかりでとても楽しかったです。
- 進路が前より具体的に考えられるようになった。
- 竹早の先輩はほんとに立派な方たちがたくさんで私たち後輩も、このようなことを受け継いでいかなければならないなと思った。
- 今から、一生懸命勉強して、自分の将来の夢をかなえたいと思う。
- このセミナーが受講でき、大変嬉しかったです。今後も続いたらと思います。
- 卒業生のお話はほんとに興味深くてすごくなりました。
- 参考になったものはじぶんのものにしてこれから夢のために頑張ります。
- 中学教員や国家公務員の普段なかなか聞けない素直な経験を聞くことが出来、とてもためになりました。
- 先輩方の話を聞いて将来のことを甘く考えていたなと思いました。貴重なお時間を割いていただきありがとうございました。
- 2つだけでなく、もっとたくさんのセミナーを受けたかったです。魅力的なのがたくさんあって決めるのが大変でした。
- 自分の学校を卒業された方々の生のお話を聞く機会があるというのは、とてもいいことだし、貴重な機会となりました。
- 卒業生の人にやってもらっているので親近感もあり、とても有益な情報を聞くことができました。今後またこのような機会があったら、積極的に参加したいと思います。
- 興味があったり聞きたいと思っていた話が聞けてとてもよかった。ありがとうございました。
- 資料がとても見やすくセミナーを聞いた後に資料を見て内容を思い出すことができ便利だった。

5. 更なる高みを目指そう

～「特別セミナー」と「土曜セミナー」…新しい試み

箎会セミナーは、特別セミナーだけでなく、新たに学びとキャリアを考える機会として土曜セミナーを企画しており、本年はその2回目です。「竹早生の、ひとりひとりの多様な感性・発達段階に応じ、更に肌理細かく、自由でダイナミックな取り組みも併せてできないか」、「モチベーションの根っこを見つめる視点から、高校生の学びと社会の活動をさらに深く掘り下げられないか」そんな声を参考に土曜セミナーは試みられました。このセミナーは1～3年の現役生徒（および保護者）が自由に参加できる無料のセミナーです。本年度は、チラシを配布いただき、29名の参加がありました。教職員から特別セミナーだけではなく、土曜セミナーの評判が良かったのも今年度の特徴です。

6. 『話し手』の想い

今回、3名の方に寄稿をお願いいたしました。飯塚さんは、商社勤務を経て治療家の道を歩まれています。現役時代から今に至るまで、クラスの永遠のまとめ役でもあります。セミナーでは治療家としての仕事を、実演も含めてわかりやすく紹介していただいています。金杉さんは、外務省の仕事にとどまらず国家公務員の仕事を平易な語り口で話されています。世界での話題も紹介いただきましたが、生徒の記憶に残り、好評を博したセミナーでした。現在は、外務省本省アジア大洋州局審議官をされています。箎 88 回生の鈴木さんは航空会社勤務。1988 年卒業の話し手として、生徒の気持ちに寄り添った話をして下さっていて、大空にあこがれる生徒の心をつかんでいます。

特別セミナーの意義を想う

箎 77 回生 飯塚 均

1977 年の卒業生です。治療家（鍼灸・指圧整体）として、セミナーの話し手を数年させて頂いております。セミナーの意義にしばって述べたいと思います。毎回思うのは、こういうセミナーが私の高校時代にあったら人生がもっと良いものになっていただろうな、ということです。よく、子供の頃の夢をかなえるのは素晴らしいことだ、と



というような話を聞きますが、私は必ずしもそう思いません。子供（高校）時代、将来の展望や人生設計などはあまりに漠然としたものです。まず世の中にはどんな仕事があるのか、具体的にどんな内容か、どんな道があってどう歩んでいったら良いのか、そういう具体的な知識などは大したものではありません。学校でもそれらは教えてくれません。結局は身近な大人や自らの貧しい視野見聞しかベースになりえず、極めて限定的で貧弱なものです。しかしそんな状態で、大学受験を始め将来のことを決めていかなければならないというのが現実です。そんなことで本当に充実した納得できる人生を送れるのか、選択肢があまりに少なすぎないか。これはずっと考えていました。

従って、それらの知識を知る機会をもっと多く提供されるべきだと思うのです。実際に仕事をしている、高校の先輩という身近な本人の、飾りの無いざっくばらんな正確な話。そういうものは必ず参考になる貴重なものだと思うのです。そして高校生にはより多くの知識と選択肢を持って、効率的な充実した人生を送ってもらいたいと考えます。

これは高校生に限らず社会人にも言えると思います。セミナーで同期生の話をいくつか聞きましたが、参考になる面白いものばかりでした。人生をやり直したいとさえ思いました。もちろん自分の人生はそれなりに納得も満足もできるものと思っはいますが、将来を決める時点でもっと多くの選択肢があったら、とは思います。

この意義あるセミナーを、出来れば竹早高校だけでなく、全国的また全世代的に広めていってもよいのではないかとさえ思います。

限られた字数で書きたいことの一部しか書けませんが、セミナーの意義をご理解いただき、もっと質的量的に広めていきたいとの思いが伝われば幸いです。ありがとうございました。

箎会特別セミナーに参加して

箎 78 回生 金杉 憲治

セミナーでは、公務員の仕事についてお話しましたが、私が高校生だったときに比べて、生徒の皆さんの意識が高いことに感心しました。私の高校時代には、自分が将



来、どのような職業に就きたいのかなどは考えてもいませんでした。外務省に奉職して早30余年が経ちましたが、今回のセミナーでお話するため、公務員の仕事について改めて考える機会を得たことは、自分自身にとっても大変良い勉強になりました。また、様々な面で競争がますます厳しくなっている社会の中で、高校生の頃から問題意識をもって取り組んでいけば、将来の人生の選択肢は確実に増えるのではないかと思います。それ故、自分がお話したことが生徒の皆さんにとって少しでも参考になれば幸いに思います。

また、竹早高校が帰国子女の受け入れに積極的に取り組んでおられることは、外務省員の一人としても大変ありがたく思います。我が二人の娘も帰国子女でしたが、タイミングが合わずに篁会の同窓生にはなりませんでした。しかし、私の同僚の一人が帰国子女で竹早高校に通い、今は立派に外務省の一員として活躍しています。今のところ確認されている竹早高校卒業の外務省員は私も含めて2名だけですが、将来はもっとも増えてくれることを期待したいです。

特別セミナーと一緒に参加しませんか

篁 88 回生 鈴木 克洋

竹早は単位制や著名な先生陣など、今考えるととても恵まれた環境だったのだと、改めてありがたさを感じます。私にとっては特に、中国の武漢大学で教鞭をとられ、「日中の懸け橋になる」ことを実現された、故・岡嵩先生にとっても大切な、夢を実現することの大切さを自らの背中では示していただき心より感謝をしています。

大学に進学したあと、私は米国と英国に留学しました。そのきっかけを作ってくれたのは、竹早の岡先生の想い、そして帰国子女出身の竹早の友人たちから海外生活の話を聞いたことで、自分の夢を実現したともいえます。そして、私がいま航空会社で海外との懸け橋を担っているのも、竹早でのこの経験が活かしています。

卒業して25年が経過しこの「篁会報」で「篁会特別セミナー」のことを知り、お世話になった竹早高校のために私自身ができる事があるのではないかと、という想いで事務局の方にご連絡を取らせていただきました。2



年連続で、「航空会社の仕事」というテーマでお話をさせていただきました。竹早2年生は今も昔のように素直でまっすぐ、吸収力の高い高校生です。しかし、平成8年生まれの彼らは、マリンジャンボも旧羽田空港のことも生まれる前なので知りませんでした。

世代の違いはありますが、私は少しだけ彼らより早く生まれ、これまで経験してきたことや知識を伝えてあげること、彼らのこれからの人生を考える上でのきっかけづくりになったとすれば、竹早という軸を中心に時空を超えてつながれる、とても貴重な機会であると考えています。この特別セミナーは今後も継続していきますので、私たちと一緒に話し手としてご登壇をしていただける若い卒業生の方々のご連絡をお待ちしております。

7.今後のセミナーの課題は

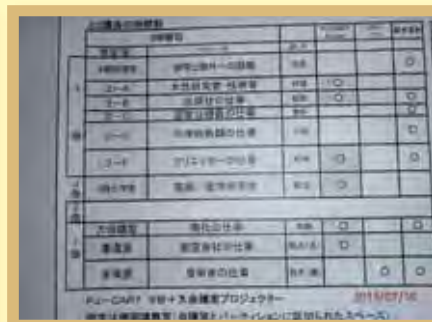
～さらなる協力のステージへ

竹早高校総務部との連携が年々進んできましたが、進路指導部との協力は今後の課題です。セミナーの位置づけの見直し、更なる進化にも関わってきたいと思います。生徒の参画、具体的には事前にインタビューして紹介記事を書くなどのアイディアが聞こえてきています。活動も一層受身的ではなくなり「価値」あるものとして定着するでしょう。これが「学び」の核心に触れる作業となることも期待され、今から次年度が待ち遠しいです。

8.会としての活動の位置づけ

最後に、今年聞こえてきたひとつの声をご紹介させていただきます。それは、セミナーの活動は同窓会が最もやるべき柱の事業の一つではないか、とのご意見です。・・・同窓会は高校当時の話しを気軽にできる場所であることはいうまでもありませんが、違う学年の方々と気持ちが通いあい、ひとつのものを作りだしていける。そしてそれが在校生への想いに連なり、結果となる。セミナー活動は同窓会にとってとても貴重な場ではないか。・・・そんな励ましを、事務局では感謝の気持ちをもって聞いています。

篁 77 回生 副会長&特別セミナー事務局 古関恵一



学校の活動報告



簗会の皆様には竹早高校の教育活動のために、常日頃から多くのご支援・ご尽力を賜り、生徒及び教職員一同、深く感謝しております。

平成25年度は簗会特別セミナーに先立ち、土曜セミナーを実施していただきました。昨年度に比べ生徒の参加人数が増え、講師の方からお話を伺い、視野を広げることができました。竹早祭は台風のため1日だけの開催でしたが、「お休み処たかむら」では飲み物やお菓子を提供していただき、ありがとうございました。また、昨年度に引き続き、3年生徒2名が簗会教育奨学金をいただき、勉学に励んでおります。

夏季休業中に、1年生の希望者45名を対象に、福島県の

British Hillsで英語を中心とした宿泊研修を実施し、参加した生徒の満足度はとても高いものでした。

大学合格状況は表1のとおりです。

部活動では軟式野球部が夏の東京大会で準優勝、陸上競技では棒高跳びで関東大会出場と、成果をあげました。

学校説明会等への来校者数は表2、入試の実質倍率は表3のとおりです。

今後とも、良き伝統を踏まえた竹早高校の教育活動をさらに発展させるために、引き続きご尽力いただきたく、お願い申し上げます。

(服部 幸一郎 竹早高校副校長)

平成25年度 年間行事

- 4月 土曜講習*1、始業式、入学式、対面式、1・2年課題テスト、2・3年保護者会、生徒総会、健康診断
- 5月 校外学習*2、体育的行事、父母と教師の会総会、竹早塾*3、中間考査
- 6月 3年進路オリエンテーション、授業公開・保護者会、簗会土曜セミナー、2年進路オリエンテーション
- 7月 期末考査、1・2年模擬試験、簗会特別セミナー、終業式、夏期講習、部活動夏季合宿*4、学校見学会
- 8月 部活動夏季合宿*4、学校見学会、British Hills 団体宿泊研修、夏期講習
- 9月 始業式、3年推薦・センター試験説明会、1・2年課題テスト、竹の子祭、竹早祭、1年宿泊を伴う防災訓練
- 10月 授業公開・学校説明会、中間考査、2年修学旅行
- 11月 模擬試験、開校記念日、体験入学・学校説明会、国際理解講演会
- 12月 期末考査、合唱コンクール、終業式
- 1月 始業式、1・2年課題テスト、推薦入試、1・2年模擬試験
- 2月 1・2年保護者のための進路講座、学力検査
- 3月 学年末考査、卒業式、1年芸術鑑賞、1・2年進路講演会、2年合格体験講演会、修了式

*1 土曜講習

予備校講師による大学受験に向けた英語・数学の講習 前期(4～7月)、後期(9月～2月)各10回実施

*2 校外学習

1年：相模湖 2年：横浜 3年：東京ディズニーリゾート

*3 竹早塾

父母と教師の会と卒業生が連携した考査前の生徒の学習支援

5/18、25、6/22、29、10/12、19、11/23、30、3/1の全9回実施

*4 夏季合宿 参加者：12部、257名

陸上競技、サッカー、軟式野球、男子バスケットボール、男子硬式テニス、女子硬式テニス、ソフトテニス、バドミントン、吹奏楽、美術、天文、箏曲

表1 大学合格状況

国公立大学

	H25	H24	H23
北海道		1	
帯広畜産		1	
東北	1	1	
福島	1		
筑波	1	2	2
宇都宮	2		
埼玉	7	7	3
千葉	5	5	3
お茶の水女子			2
電気通信			1
東京医科歯科		1	
東京外語	3	2	2
東京海洋	1	1	1
東京学芸	1	3	2
東京藝術			1
東京工業	2	1	1
東京農工	3	2	1
横浜	1		1
信州		1	2
静岡			1
岐阜	1		
京都		1	
神戸	1		
長崎	1		
前橋工科	2		
埼玉県立	1		1
首都大学東京	4	4	4
横浜市立		1	
都留文科			1
静岡県立			1
国公立合計	38	34	30

私立大学

	H25	H24	H23
青山学院	29	24	16
学習院	19	16	14
慶応義塾	3	10	5
國學院	26	9	*
駒沢	12	8	3
芝浦工業	19	9	18
上智	6	14	11
成蹊	6	9	18
成城	9	11	2
専修	9	9	10
中央	17	21	15
津田塾	3	1	
東京家政	4	2	2
東京女子	5	2	
東京都市	9	*	*
東京農業	36	7	20
東京理科	24	23	28
東洋	52	48	37
獨協	11	*	*
日本	40	31	26
日本女子	8	3	6
法政	44	47	48
武蔵	12	9	23
明治	50	49	38
明治学院	38	19	23
立教	53	59	30
早稲田	31	41	26
その他	83	69	61
私立合計	658	550	480

数値は現浪のべ合格者数である。

H25年度はH26.3末の数値である。

H24年度卒業生は7クラス(他は6クラス)

*はその他として集計

表2 来校状況

	H25	H24	H23
学校見学会	1,414 (10回)	1,330 (11回)	1,365 (11回)
竹早祭	1,458	4,129	3,509
学校説明会	1,332	1,090	933

H25年度竹早祭は台風接近のため1日のみ開催

表3 入試状況(実質倍率)

	H26	H25	H24
帰国	2.00	1.00	1.21
推薦			
男子	3.52	2.67	2.39
女子	5.81	4.20	5.05
一般			
男子	1.49	1.39	1.37
女子	2.06	1.60	1.69
募集(クラス数)	6	7	6

在校生の活躍紹介

軟式野球部

部長 長田 健志

僕たち軟式野球部は、この決して恵まれているとは言えない野球環境の中、夏季都大会で歴代最高の準優勝という成績を残すことができました。チーム結成当時は秋季大会、春季大会ともに予選敗退と思うように良い成績を残せませんでした。竹早野球部は悪くても都大会出場は当たり前だったので、かなり危機感を覚えました。正直この環境で都大会を勝ち上がっていけるのかと疑うことも多くありました。この竹早の環境ではより実践に近い練習ができないので、秋季大会後からは、毎週のように他校と練習試合を行い、試合の中で練習をして実力をつけていきました。また冬の練習では、ポジション別の練習をして守備強化に力を入れて練習しました。狭い環境を効率よく最大限に利用したトレーニングを行い、また、体幹・筋トレなどのメニューもこなすことで筋力アップをはかりました。竹早周辺の坂道を活かした坂ランという竹早独特のメニューも選手達の体力づくりに大きく貢献したと思います。このように工夫した練習を行い、練習試合ができない

オフシーズンを有効に過ごすことができました。しかし冬が明けて1ヶ月足らずで始まる春季大会も予選で負けてしまいとても悔しい思いをしました。3年生は残すは夏季大会のみとなり、夏を目指して勉強と両立しながらがんばりました。練習試合も春季大会以降負けなしでしたが、あくまで公式戦では予選敗退だったので挑戦者として夏季大会にのぞみました。初戦以降は全てシード校との試合でしたが、一戦必勝で接戦をものにして勝ち進んでいきました。決勝戦では、強豪早稲田大学高等学院に惜しくも延長戦の末に敗れてしまいました。とても悔しかったのですが、3年生は笑って引退しました。

現在、軟式野球部は2年生7人、1年生14人、マネージャー7人という部員数です。秋季大会ではベスト16で敗退してしまいましたが、春季大会、夏季大会では先輩が成し得なかった優勝を目標としてがんばりたいと思います。

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	R
早大学院	2	0	0	0	1	0	0	0	0	3	6
竹 早	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3

強豪早稲田大学高等学院と決勝戦を戦った竹早高校



高校軟式野球選手権・夏季都大会で準優勝！



箏 曲 部

部長 佐山 陽美

私たち箏曲部は、1年生4名、2年生2名の計6名で、少ないながらも楽しく活動しています。月曜日、火曜日、金曜日の週三日の活動日の中で、講師の先生にもお越しいただいています。また、文化祭での演奏だけでなく、高等学校文化連盟の文京区中央の大会や、三曲のつどいにも参加し、今年は学校説明会での演奏も行いました。演奏する曲は、箏の曲から、J-POPまで様々です。普段よく耳にしている曲でも、箏で弾くと雰囲気がガラリと変化し、和楽器の良さが伝わってきて、弾いていてとても面白いです。

さて、私たちが普段演奏する上で気をつけていることは、他の人の弾いている音をよく聴き、気持ちを合わせることです。箏は爪で弦を弾(はじ)いて音を出します。爪は固いので、とてもはっきりとした音になり、少しでもずれてしまうと、聴いていてとても目立ちます。私たちは6名ですが、それでもずれると気になって、音が重なるよう

に何度もやり直します。はっきりとした鋭い音が出るからこそ、皆で一音一音気持ちを合わせていくことは、とても重要なことだと思います。

また、箏の音はよく響くので音と音の「間」が大切にされています。弾いてない所でも、前弾いた音の余韻が残っていて、それも「音」という認識となっているので、「間を弾く」という感覚があります。全員間がある所で、次の出だしの音がそろるととても気持ちが良いです。間を大切にすることは日本人らしさのようなものだと思うので、それが楽器に反映されていることにも魅力を感じます。

相手の音を聴いて自分の出るタイミングを合わせたり、皆で気持ちを一つ一つ音にしたり、間を大切にしたいというのは、箏だけでなく、普段の生活でも私たちがしていたりすることではないでしょうか。箏を弾いていく中で、演奏だけでなく内側も成長していけたらと思います。



なつかしの先生

竹早の皆さんと夫・金子史郎の思い出

金子 美智子

「授業中の先生は徹底的に不機嫌だった」

「授業に付いて来る気の無い生徒を完全に無視した」

「鬼気迫るような授業だった」、等々、

生徒さんの、主人に対しての印象が書かれたエッセイ等読ませて頂くと、容赦なく、身のすくむ思いです。でも、その厳しい言葉の中に、どこか主人に対する親しみが込められていると感じるのは、こちらの都合の良い解釈でしょうか。あちらの世界で、主人も、書いて頂いたものを、苦笑しながら、嬉しそうに読んでいた気がしてなりません。

素直な自己表現が苦手で、いわゆる不器用で、皮肉屋の主人でした。それでも、その心の奥底に、何か、竹早の皆さんにも感じ取って、共感して頂ける部分が有ったのでしょうか。遠い大宮の拙宅によく遊びに来て下さいました。皆さんのお話を黙ってじっと聞いていた姿が思い出されます。私も楽しい時間を共有させて頂きました。

主人の手記によりますと、囲碁部の指導に当たり、「私に二子置きなさい」と言ったところ、「おかしいな、先生の方が三子置くのではないですか」、「まあ、先生の命令だからその通りにしよう」と言われたとあり、自分の事を「信頼されざる指導者」としています。

はばかりながら、主人の棋力は、そこそこあるはずで、高校生当時で、主人に石を置かせるほどの生徒さんは、おそらく、おられなかったように思います。没後、家を訪れて下さった元囲碁部員の方に、お尋ねしても、「そんな失礼な事を言ったかなあ」と、首をかしげておられました。こういう創作的な書き方をすることからも、主人のあまのじゃくな性格が伺えます。

二子置かせて練習を続け、全国高校囲碁選手権大会に臨みました。東京都大会を順調に勝ち進み、いざ全国大会へ。残念ながら準優勝でした。しかし、これは大変な快挙であると生徒さん達を讃え、大変喜んでおりましたが、その喜びを生徒さんの前で素直に表現出来ましたかどうか、懸念される所です。

主人は、家の庭にやってくる野鳥の餌やりが毎日の日課でした。冬から春にかけては、十種類以上の野鳥がやってきます。小鳥たちの姿を眺めるのも楽しみの一つでした。家の門の前に、生まれて間もない子猫が捨てられていた時、その猫にガーゼに含ませながらミルクをやっていた姿も思い出されます。そんな姿を竹早の皆さんは想像がお出来になりますでしょうか。

1964年から1985年の長きにわたって竹早にお世話になり

ました。年齢的に人生のもっとも充実した年月を竹早の皆さんと出会い、共に学び、思索し、時には対立し、まさに豊饒な時間を得る事が出来た事は主人にとって、何より幸せなことだったと思います。2008年3月、主人は、花を待たず、苦しみの様子も、何の不満の様子も見せずに逝きました。75歳の生涯でした。

竹早の皆さんが、今もなお、お墓参りをして下さいたり、自宅にお線香をあげに来て下さったり、近況のお便りを下さったりと、お心に掛けて下さいます。主人はどんなにか喜んで

いる事でしょう。心から感謝申し上げます。

晩年、主人は故郷をこの様に歌っています。

緑 郭 公 の 声
と 撫 づ る
沈 む 村
昼 の 眠 り に
バ ス 去 り て

皆様に支えられた長い教員生活を経て、主人の心は、緑深い故郷の空に、安らかに帰って行ったと思っております。



筆者の金子美智子様は、金子史郎先生（化学科・地学科、昭和39年～60年）の奥様です。金子史郎先生ほど多くの竹早卒業生の記憶に残る先生も少ないでしょう。金子先生の地学の授業には、高校では習わない難しい方程式が登場し、その方程式でよく使われるギリシャ文字にちなみ「オメガ」というニックネームが贈られました。

竹早高校の思い出



土屋 正孝

社会科地理教諭（昭和 38 年～昭和 48 年）

校門を過ぎると聳え立つヒマラヤ杉の奥にレンガ造りの落ち着いた校舎が見えました。玄関を入ると左に校長室、右に講堂入口、さらに進むと職員室、その向かいに家庭科室があり、この教室もホームルームとして使われていました。

着任した年、第 1 次ベビーブームの生徒が入学してきました。1 クラス 55 名在籍で教室は超満員でした。厳しい試験の下、合格し入学してきた生徒達でしたので落ち着いていて、気品のある方々でした。授業は生徒の輝く瞳の中で展開できました。自主研究で「地域調査」を実施し、報告書には「文京区の坂」等素晴らしい作品が見られました。

昭和 42 年に入学者選抜制度が変わり学校群制度が導入され小石川高校と群を組みました。小石川高校に負けまいよう進学実績向上めざし費用を徴収し補習授業を行ったこと等が問題となり、昭和 44 年に学園紛争が起こり、ほぼ 1 年間授業が出来ませんでした。

紛争後、生徒は学力向上に打ち込みました。私は特別講座として「地理特論」を設け、当時、大問題であった公害につ

いて、わが国の公害の原点といわれる「足尾銅山跡地」や「渡良瀬遊水地」、さらにヘドロで有名になった「田子の浦港」等を生徒と共に調査研究しました。

授業が出来ない期間がありましたが、生徒の多くは勉学に励み希望した大学に合格し進学しました。大学を卒業後、著名な証券会社で活躍し、社長となった MM 君。また、大企業からアメリカのスタンフォード大学に留学し工学修士を取得、その後、外資系企業に転職し、さらに会社を設立した SM 君。彼は母校でボート部監督として後輩の指導にあたっていました。また、音の達人といわれミュージシャンとして大活躍している TY 君など、財界や藝術界、官界、教育界等で活躍している方々が多数おります。

この方々は還暦を迎え、先年「祝う会」を開催、私も招待にあずかり、当時の教え子達と共に「ヒマラヤ杉に」の校歌を斉唱、目頭が熱くなる思いをしました。また、同期の皆様が「竹早山荘」の運営にも協力しており、彼らの母校愛に感動しています。竹早高校の、益々の発展と暁会の彌栄を祈念致します。

自然と人が響き合う

『清里自然の森 山荘』

竹早山荘の施設名称を『清里自然の森 山荘』に変更いたしました

（財）竹早会は財団法人に関する法令改正に伴う移行申請をしておりましたが、内閣府より認可が下り、2013 年 10 月 1 日より、一般財団法人フォレストアークス清里としてスタートすることになりました。

そして竹早山荘は、施設の名称を『清里自然の森 山荘』と変更いたしました。

これからも吉村順三氏設計による、日本の風土に適した自然と一体感を感じられる心地よい建物を守り、人と自然の響きあう森の架け橋として皆さんに活用していただけることを願って活動を続けてまいります。

自然から教えられることは、まだまだ無限にあるように思えます。私たちは自然の一部であり、健康な身体、生きていく「ちから」を自然から授かってきました。何億年も長いときを経て作り出された自然のしくみを私たちは忘れがちです。様々な『いのち』を育む森で、自然と響きあう時間を過ごしていただきたいと願っています。今まで以上に山荘を様々な活動の場としてご活用下さいますように、そしてご支援をお願いいたします。

一般財団法人フォレストアークス清里

『清里自然の森 山荘』

山 荘 〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里 学校寮区 TEL 0551-48-2032

事務局 〒112-0011 東京都文京区千石 2-34-1-101 TEL 03-3942-3832

e-mail shizenmorisansou@gmail.com

竹早エコー

あらまっ！動きだしそうな手袋人形達！！

香川 洋子 高校 20 回生（篁 68 回生）



エルマーとりゅう



桃太郎と鬼が島



絆・家族



高校2回生 篁 50 回生
長縄 泰子さん

校門を入り校舎に沿って右に曲がると、カラフルなお人形達が迎えてくれます。

一番最初に目を引くのは、空を飛んでいる「エルマーとりゅう」です。今にも動き出しそうな「桃太郎と鬼が島」「3匹のやぎのガラガラドン」「絆・家族」「てんぐちゃんとだるまちゃん」など。全体写真もご覧ください。（在校生が通りかかりました。）



作者は長縄泰子さんです。幼稚園教諭の後、専業主婦を約20年間され、絵画教室を始められました。子供たちと過ごす中で1977年に手袋人形の創作を始め、その後、たくさんの個展をなさり、多数の本の出版をされました。主な材料はカラー軍手です。洗えます。

各地の幼児教育のセミナー、地域保育士会の研修会、幼稚園の母親グループ会、看護師のグループ会などで、手袋人形作りの講習会を続けてこられました。とにかく、子供たちは手袋人形が大好きなのです。

おとなしくて喋らない子供が、指人形を動かしながら動物になりきって、話したすとの事。目に見えるようです。素晴らしいですね。

長縄さんは手袋人形を、言語発達のお人形という意味で「言語人形」と名付けられました。

子供のそばに「質の高いものを置きたい」という思いで、これまで活動を続けてこられたと伺いました。「正確に数えた訳ではないけれど、うちには2500体位あるかしら。」との事。この度、その中から厳選した作品を竹早高校に寄贈して下さいました。展示場所が日当たりの良い？場所ですので、ガラスに貼る遮光フィルム工事一式も寄贈して下さいました。

くるみ割り人形のお話のように、誰も見ていない時、動いているかもしれません。

教育基金にご協力を！

今まで販売していたTシャツが残り少なくなり、新たなツールとしてUSBメモリを作りました。8GBで、片側に校章が三つレーザー彫刻されています。

送料込で1個1500円です。経費を差し引いた利益分は、奨学金の基となる教育基金に組み込まれます。

お申込みは郵便振替で

ゆうちょ 振替口座00100-6-671972 篁会

ご住所、お名前、電話番号を明記の上お願いします。もちろんご寄付も大歓迎です。その旨ご記入ください。奨学金を充実させるためにぜひ皆様のご協力を。6月15日の篁会総会会場でもご購入いただけます。



笑い合い支え合える友人に恵まれて

水品 ひまわり 高校65回生（篁113回生）



竹早高校を卒業して約1年がたちました。この1年だけで、高校時代を振り返ったことが何度あったでしょう

か。高校3年間はあっという間でした。高校時代の友人達と会うたびに、「戻りたいねー」と言い合っています。竹早高校で共に過ごし、笑い合い、支え合った友人達は一生ものです。それぞれ別々の道を歩んでいるけれど、忙しい中でも予定を合わせて集まっています。そして、高校時代の話を探り返していつも同じ話で笑い合っています。これから先もずっとずっとこんな風に笑い合っていけるのだろうなと思います。竹早高校に入って一番良かったことは、こんな風に今でも集まって笑い合える友人ができた事です。7時間授業もテストも辛かったけど、友人がいてくれたから乗り越えられた気がします。辛い事より楽しい事の方がずっと多かった気がします。体

育祭や文化祭などの行事や部活、思い出すのは楽しかった思い出ばかり。ここに通わせてくれた両親やいつも優しく支えて下さった竹早高校の先生方に、改めて心から感謝申し上げたいと思います。まるで友達のように気軽に話せる先生がいてくださり、とても居心地の良い3年間でした。勉強や進路のことで悩み思わず苛立ってしまった時に私を支えてくれた両親や家族にはどれほど感謝してもしきれません。そして、今でも笑い合い支え合える友人やかけがえのない楽しい思い出を与えてくれた竹早高校に感謝しています。本当に竹早高校に入って良かったと思っています。



前列左端が筆者

地下文芸部文集『鬱』 寄稿者の方々へ

篁会報編集委員会

編集委員会の手許に、今から40年前の竹早高校生や先生方の作品を掲載した『鬱』という文集が届いています。『鬱』には、下記(1)の8名の方々の文章や短歌が掲載されており、A5版181ページの体裁に美しく装丁されています。お心当たりの会員の方は、ぜひ下記(2)までご連絡先をお知らせ下さいませようお願い申し上げます。寄稿者の方々に、『鬱』各1冊を無償でお送り申し上げたいと存じます。

記(1)『鬱』の寄稿者

- | | |
|------------|---------------------|
| 1 中村桂三 | 温泉の町 |
| 2 福田裕彦 | 床屋 |
| 3 山田三平(先生) | エイブラハム・リンカーン論 |
| 4 S・Y | 小説が書けなかったあるみじめな男の物語 |
| 5 M&M | えむのおはなし |
| 6 福田裕彦 | やまだのかかし |
| 7 坂井孝一 | 自作短歌 |
| 8 山田徳蔵(先生) | 坂井孝一「自作短歌」の観賞と批評 |

『鬱』のオリジナルは、当時の地下文芸部仲間が手書

きの原稿を綴じ込んだものらしく、発行元名に『竹早地下文芸部』、発行日は1974年3月1日とあります。仲間のひとりだった鷺沼あかねさん(旧姓田口さん、高校30回生、篁76回生)が、出版社に勤務されていた父親の田口氏に、『鬱』を編集して製本して欲しいと依頼されたそうです。田口氏は、娘さんとの約束を果たすべく、ご自分で原稿をパソコンに打ち込まれ、自費で印刷・製本までされた上で、昨年、10冊の『鬱』が竹早高校に届けられたという次第です。

記(2)連絡先：篁会報
25号 編集委員 水田茂夫(高校23回生、篁71回生)
郵便番号157-0073
世田谷区砧8丁目32-23-302、メール：
mizuta@gol.com



表紙



本文

「竹早高校の思い出」



入学したのは、東京オリンピックの翌年になる、昭和40年(1965)です。

故市川崑監督作品となる東京オリンピックの記録映画を鑑賞したのは、学校の映画鑑賞

会のときでした。中学3年生で観た映画の冒頭に出てくる、大きな鉄のボールがクレーンに吊られ古いビルを壊し新たな東京の街づくりが進む姿が強く印象に残っています。この場面が、私の人生を決定することになりました。竹早に入学してからは、新しい街づくりに携わるには、どんな勉強をしてどんな学部を目指せばいいのか、次第に真剣に考えるようになりました。

1年から野球部に入り3年間野球部はもちろん、特に運動部の仲間と過ごした時間は青春という言葉そのものでありました。受験地獄と言われた時代ですが、仲間と過ごした素晴らしい時間は、今でもその時の状況が目に見え鮮やかに浮かんできます。特に、体育祭への取り組みです。運動部が一致団結し、旧校舎一面に色紙で折った花で創作した飾りつけ・体育祭に合わせて結成される応援団活動・泊まり込みで行った準備作業など、昨日のように思い出されます。仲間との付き合いは今も続いています。

竹早恒例の下諏訪での夏合宿のつらさは、想像を絶するものでありました。朝一番の下諏訪神社での階段ダッシュから始まり、グラウンドまでのランニング、スタンド下の部屋でおにぎりを牛乳で流し込み冷やしトマト

佐野 正生 高校20回生(筈68回生)

で水分を補給しました。昼寝の時間はあっという間に終了で、午後の練習へと続いていきます。起床を告げる先輩のスパイクの音が今でも耳に残っています。運動中の飲料は禁じられていた時代であり、昼休みの水分の補給はとても重要で冷やしトマトは、顧問である恩師・国広功先生の考えで実現したようです。練習終了近くになると上級生からそっと告げられる言葉があるのです。「あまり元気そうにするなよ、帰ってからランニングがあるぞ」という。それでも、何回かは、旅館に着くと集合がわかり岡谷方面へのランニングが実施され皆必死で行きました。先輩方も一緒に走ったり、沿道から心配そうな顔で皆を見守っている中でランニングでした。厳しい合宿は、肉体はもちろん精神的な成長にも寄与してくれたと強く感謝しています。学生時代や社会生活の中で何度か厳しい場面を経験してきましたが、合宿の辛さに比べたらと乗り切ってこれました。

「何か物事を成すには、中途半端では何ももたらさない。」合宿での生活は、物事をなすには、徹底して追求し体験することが重要であるという、国広先生の教えそのものであったと思います。

国広先生は、平成17年秋に亡くなるまで竹早野球部の顧問そのままに奥様とともに折に触れ我々のことを気遣ってくれていました。恒例となった先生のお宅での正月の集まりには、家族づれでおじゃましたため、大勢の子供たちで大変な時期もありご迷惑をおかけしたことを思い出します。

生涯とも信頼できる大切な仲間を育ててくれた恩師・国広先生に改めて心からの謝意をお伝えしたいと思います。

「国広先生を偲ぶ会」

我々竹早野球部員は、故国広功先生(昭和30～44年在職。その後、国分寺高校、戸山高校で国語科教師を歴任。さらに某予備校、古典の「ラジオ講座」講師として活躍、平成17年逝去された。)が、顧問だった時代に所属していた、むしろ国広野球部員と言ったほうが適当なメンバーである。先生にお世話になった同士、その付き合い、つながりは永く、固く続いており、集まりは「国広先生を偲ぶ会」として毎年行われている。

場所は新宿の某スナック、昨年も11月に貸し切りの形で開かれ、18名が参加した。共に語り合い、飲み、歌うという形で、話題は先生の思い出は勿論、個々の近況、夫婦間のことから子供や孫のことまで多岐にわたる。近年は、皆加齢のためか自ら患った病いの話も出たりして、互いにはげまし、慰め

今井 大弥太 高校22回生(筈70回生)

合うような若干辛い話題もある。

昼すぎから始まった会もいよいよ大詰め、最後に一人一人がそれぞれの思いを披瀝してお開きとなるが、全員が共有しているのは、先生の思い出と、また数々の教えである。それは竹早高校に在籍した故であり、得がたい貴重な財産として心に刻まれている。



追: 竹早高校の軟式野球部は、2013年夏の東京都大会で準優勝という輝かしい成績を残しました。野球部の後輩たちの活躍を国広先生と共に祝福したいと思います。

平成 25 年度「篁会総会・懇親会」報告



平成 25 年度の篁会総会・懇親会は、6 月 16 日（日）に芝公園の東京プリンスホテル『マグノリアホール』にて開催されました。当日は晴天に恵まれ、当番幹事の高校 23 回生（篁 71 回生）が出席者の誘導に当たり、和やかな雰囲気の中で午前 11 時の開催を迎えました。出席者は来賓を含め合計 87 名でした。

【総会】

篁 71 回生の中村光宏副会長が議長に選任され、中村議長の議事進行のもとで、役員の紹介、新任理事及び退任理事の承認、平成 24 年度事業報告、決算報告、監査報告が行われました。引き続き平成 25 年度事業計画案、予算案の趣旨説明が行われ承認されました。

【講演会】

篁 71 回生・司会の藤木乃利子さんの紹介で、同じく篁 71 回生で葛飾公証役場・公証人を務める保坂洋彦講師より、「国民の司法参加」－裁判員制度を中心に－と題した講演が行われました。保坂講師は、平成 24 年度に高松地方検察庁検事正を退官されるまで一貫して検事のキャリアを積まれたベテランであり、講演は検事としての豊富な実務経験に基づいた素晴らしい内容でした。

【懇親会】

来賓を代表して竹早高校校長の丹藤浩先生のご挨拶で 12 時 40 分から懇親会が始まりました。丹藤校長先生からは、6 年目を迎えた特別セミナーや 2012 年から始まった教育基金奨学生制度等、OB 会による積極的な高校支援の取り組みとして、東京都や他校からも注目されているとのご紹介を頂きました。乾杯、来賓各位や卒業生のスピーチと続き、最後に府立第二高等女学校と都立竹早高等学校の校歌を斉唱しました。次年度当番幹事を務める篁 72 回生の塩見健氏から来年度の総会の告知があり、定刻の 15 時に楽しい会もお開きとなりました。

水田茂夫 高校 23 回生（篁 71 回生）

箏会教育基金・奨学生認証式

奨学生の選考は本年度で2回目を迎えました。2013年度の箏会セミナー開催の機会を利用して、7月10日に認証式が校長室で行われました。松本紀子会長から認定書がひとりひとりに手渡されました。

本年度は3年D組黒沢桃子さん、3年F組海老澤真衣さんの両名に決まりました。

会長からは、「今の学生さんはスカートが短いんですね」とのご指摘もあり、一堂顔を見合わせるなど、和やかさもある認証式となりました。

今後は奨学金が有意義に使われるとともに、竹早卒業後には、さまざまな世代からなる竹早高校の卒業生と、交流を深める若い世代のリード役にもなっていただければと思います。お二人の益々のご活躍に期待しております。

後期の奨学金授与では、同窓会による奨学生認定、奨学金制度はとても良い取組みとのご指摘が改めてありました。持続可能な範囲で行うという考え方が基本にあるので、少々ひとりの金額は減らしても、奨学生の人数を増やしてほしいとの声も出席の方々からは複数ありました。次年度以降では、検討課題になりそうです。



(箏会教育基金事務局)



「九箏会」の皆様、ご寄付をありがとうございました。

高校9回生（昭和32年卒業、箏57回生）の皆様は、これまで「九箏会」という同期会を開催して来られたそうです。今般、同期会を解散するにあたり会費の残金3万円を奨学金などに役立ててほしいという趣旨のご連絡を、2014年2月に「九箏会」の長谷川純氏よりいただきました。ご芳志は、箏会教育基金へのご寄付として有意義に活用させていただきたいと存じます。

「九箏会」の皆様、ご寄付を賜り誠にありがとうございました。厚く御礼を申し上げます。



「お休み処たかむら」 2013

台風が関東に何度も近づいたこの秋、2013年度の竹早祭は台風18号の影響をもちに被りました。午後に奇跡的に雨がやんだ文化祭1日目は無事に終了致しましたが、2日目は中止となってしまいました。

竹早祭1日目の9月15日(土曜日)の朝、東京地方は大雨でした。今年度から同窓会のお手伝いに加わったばかりで内容を全くといってよいほど把握していない私は、卒業後初めて40数年ぶりに竹早高校の正門をくぐりました。午後に当番ということでお昼少し前に着きましたが、そのころには雨もやみ、ほっとしました。

受け付けで「お休み処たかむら」の場所を教えてくださいました。在学していたころの面影を探す間もなく、2階に上がってすぐ左の教室に準備されていた「お休み処」へ伺い、お手伝いの手順を教えてくださいました。



冷たい飲み物とホットコーヒー、テーブルごとにおかれたお菓子で皆さまにくつろいでいただける場所を提供しました。冷たい飲み物4種類(なっちゃん・おーいお茶・爽健美茶・ポカリスエット)とコーヒーメーカー2台フル稼働で入れるホットコーヒーを準備しました。なかなかの混雑ぶりでした。

「なっちゃん」が若い人、男子にも一番人気とわかり「びっくり」というのが本音です。小学生くらいの女の子に人気があるだけかと思っていました。昨年まではお借りしたコーヒーメーカーでしたが、今年度は簗会に2台の寄贈を受けました。自前の機器でおいしいコーヒーを提供することができました。コーヒーは全般的に人気が高く、2台では準備が追いつかない程でした。

今年度の新しい試みとして、簗会活動費への「ワンコイン募金箱」を設置しました。好意的に賛同してくださる方が多く、チャリンの音がする度、とても嬉しかったです。

その他、昨年と同様に奨学金の為に簗会Tシャツを、1枚2,000円で販売しました。

チャリンのワンコイン寄附は総額12,213円、Tシャツの売り上げは8,000円となりましたことをご報告します。ご協力ありがとうございました。

新しい校舎内の配置も分からないうちに、来場者から

「アリーナはどこですか?」と聞かれました。学校の歴史についても勉強不足なところに「1900年に創立なのに第1回卒業生が



1901年ということはどういう意味ですか?」という質問も受け、どうしようかとたじろいだ瞬間もありました。先輩理事に助け船を求めたことはご想像通りです。創立100周年を記念して作られたDVDをモニターで放映していました。記憶に残る校舎などを観ることができて、懐かしさ興味深く感じました。また廊下の窓から外に目を向けると、スカイツリーが見えたのでしばし見入ってしまいました。

正午から3時までという短い時間のお手伝いでしたが、在職の先生・在校生をはじめ、保護者の方々、来年受験を検討している受験生とその親御さん等々・・・数多くの方々と「竹早」を共通根とした会話を楽しめました。それは想像をはるかに超えたものです。

後から後から来場者があり、大変忙しい思いをしました。でもこの状況は、母校が頑張っている証拠と思い励みになりました。

準備も後片付けもお手伝いできず、短時間だけお手伝いをした新参加者が、このように報告をするのは少々おこがましい気持ちがいたします。準備・後片付けをすべて行ってくださった先輩理事の皆さま、本当にありがとうございました。来年の竹早祭にはもう少し貢献できたらと思う次第です。

この文章を読んで下さった方、どうぞ2014年の9月、敬老の日に、竹早祭にご参加下さい。「お休み処たかむら」でお待ちしております。



薩田 須美子 高校24回生(簗72回生)

第7回篁寿会開催

2013年9月21日(土)
「学士会館」にて

篁寿会も回を重ね、早7回となりました。
2013年度も例年通り、学士会館で9月21日に開催されました。

お仲間で頻りに集まっているクラス、篁寿会の折に1年ぶりに顔を合わせるクラス、といろいろですが、毎年お顔を見せてくださる方々との再会を、スタッフも楽しみにしております。

今年は篁寿会世話人のひとり、篁52回生・中島明子さんのご家族が素敵なプレゼントをしてくださいました。バイオリニストとしてご活躍の娘さん、音大付属高校で勉強中のお孫さんとそのクラスメートで、バイオリンとビオラの演奏です。

最後の校歌斉唱のときも伴奏していただき、素晴らしいひとときを過ごしました。

さて、次回も何か喜んでいただけるような趣向を考え中です。

会報に同封されているピンクの封筒にご案内が入っていますので、どうぞごらんになってください。たくさんの方のご出席をお待ちしております。

佐藤美紗子 高校16回生(篁64回生)

次回 第8回篁寿会

2014年10月18日(土) 会場は同じく「学士会館」です。詳しくは会報同封のご案内(ピンク色の封筒に入っています)をご覧ください。たくさんの方々のご出席をお待ちしております。



関西簗会だより

松森 久美子

高校 25 回生 (簗 73 回生)

みなさま、関西よりお便りさせていただきます。

平素は関西簗会の活動へのご理解、ご協力をいただき、ありがとうございます。

平成 25 年度の総会は、9 月 11 日(水)にホテルグランヴィア大阪にて開催されました。例年より早めの 9 月開催でした。

総会では昨年度のアンケート調査の結果が 島崎幹事より報告されました。会員数 167 名のうちの 35% の返信での結果ですが、総会は毎年開催を望む声が多かったこと、会報は原稿集めの苦労を軽くするためにも 2~3 年に 1 回の発行にすることなどが報告され、出席者の総意で了承されました。

その後懇親会では秋を感じる料理に舌鼓をうちながら近況報告へと進みました。

高女時代の先輩方は、当時東京から知り合いの少ない関西へと嫁いできて心細い思いの中、先輩後輩、同級生のつながりで時々集まっては東京弁で思い切りお喋りし心休まる時間を過ごし、元気をもらったのだというお話を伺いました。

また今回は東京より香川洋子副会長のご出席を賜り、会に華を添えてくださいました。高校当時の楽しいお話、簗会総会出席者で折り紙で不死鳥(フェニックス)を折って羽ばたかせたエピソードを披露され、「関西簗会でも皆さんに折っていただこうと思って」と紙を用意され指導していただきました。みな童心に戻って不死鳥を折って羽ばたかせお土産にしました。

平成 26 年度の関西簗会総会は 11 月 29 日(土)、会場は同じくグランヴィア大阪です。関西圏の皆さんはもちろん全国各地の簗会の会員の皆さん、観光を兼ねて是非ご参加ください。お待ちしております。最後に、簗会の益々のご発展をお祈りいたします。



湘南簗会だより

影本 昌則

高校 6 回生 (簗 54 回生)

平成 25 年 5 月 15 日 (水) に総会と懇親会を、例年通り鎌倉市七里ヶ浜の「鎌倉プリンスホテル」で行った。本年卒寿を迎えられる高女 41 回生の方 4 名が出席され、大変和やかな会であった。本部の松本会長からは、母校で開催されている「簗会セミナー」についてご報告があり、セミナーで若手の方々が講師として大変積極的に協力して下さっている事に感謝する旨のお話があった。

懇親会は、金子浩子様 (高校 2 回生) の乾杯で始められた。会食の際、松本会長のご提案で、参加者全員から自己紹介を兼ねてそれぞれの学生時代の思い出話をしていただいた。高女 41 回生の方々からは、期せずして朝鮮半島を廻られた修学旅行が話題となり、日程は 14 日間もあり、現在の平壤にまで足を伸ばされたとの事である。また、卒業後母校に奉職された河野かづ子様 (高女 41 回生) から、当時は空襲の激しい頃で、一時避難先の与野 (さいたま市) から竹早まで徒歩で通勤した事があるとの話であった。また、在学時バレー部のエースセッターであった中田高子様 (高校 6 回生) からは、当時母校は高校の「一部リーグ」に所属し、宿敵・中村学園と互角の戦いをしていたと話された。

食後は、田中順子様 (高校 12 回生) から「源氏物語」の中

の「源典侍 (みなもとのないしのすけ)」をテーマに話をしていただき、短い時間ではあったが、高齢者を元気づけるような大変面白い話であった。最後に、今年は「高女の校歌」全曲を一同で合唱し、お開きとした。

なお、「平成 26 年度の総会・懇親会」は次の通りです。地域外の方、また若い方の参加大歓迎です。

日時：平成 26 年 5 月 13 日 (火) 12:00~14:00

場所：鎌倉プリンスホテル



理事会報告

平成25年度の理事会活動は以下のとおりです。

【理事会】

●第1回理事会 6月13日 出席者12名 委任状5名

1) 承認事項

- ・会則、細則の見直し
- ・特別セミナー、土曜セミナーの開催
- ・24回生以降の幹事学年の選考
- ・4理事任期満了につき退任

2) 報告事項

- ・今年度総会、懇親会の進捗状況
- ・教育基金・奨学生選考の進捗状況
- ・会議室予約者名変更、連絡先変更、銀行口座名変更

●第2回理事会 8月21日 出席者13名 委任状3名

1) 承認事項

- ・平成25年度役員担務
- ・お休み処実行計画（自前のコーヒーマーカーの調達）
- ・会報委員会のメンバー、決定
- ・理事会名刺作成案
- ・新理事承認の件：塩見健氏、伊坂道子氏、加藤幸太郎氏、薩田須美子氏
- ・会則、細則変更作業開始

2) 報告事項

- ・簗寿会準備状況報告
- ・WEBシステムの状況説明
- ・携帯電話不具合、修理依頼

●第3回理事会 1月25日 出席者14名 委任状4名

1) 承認事項

- ・会則変更の詳細 新旧対照表
- ・教育基金、奨学金報告 人数の増加希望有り
- ・卒業記念品：卒業証書ホルダーに代わり、USBメモリを贈呈
- ・新理事承認の件：鈴木克洋氏
- ・新会長候補推薦：古関恵一氏

2) 報告事項

- ・手袋人形展示：長縄泰子氏より寄贈
- ・都立高校同窓会連絡協議会：校歌祭への出演要請
- ・25年度、現在の収支報告
- ・ホームページ運営：日本シー・アンド・シー(株)と覚書交換

●第4回理事会 3月29日 出席者10名 委任状9名

1) 承認事項

- ・平成25年度事業報告 会計報告
- ・平成26年度活動計画案 予算案について
- ・会則、細則変更の詳細について
- ・新理事承認の件：飯塚均氏
- ・新監査承認の件：橋本正己氏
- ・総会準備進捗状況について

2) 報告事項

- ・委員会担務：11委員会
- ・修学旅行研究協会からの依頼について
- ・竹早高校入学生へのバッジ贈呈メッセージについて

<その他>

- *4月9日 竹早高校入学式に参列
- *6月15日 土曜セミナー
- *7月10日 特別セミナー
- *7月10日 奨学生認証式
- *9月15日 竹早祭に「お休み処 たかむら」を出店
- *9月21日 簗寿会：学生会館にて
- *1月25日 新年会を竹早高校、父母と教師の会合同で実施
- *3月8日 竹早高校卒業式に参列
- *3月28日 会計監査実施

簗会 平成25年度収支予算および途中経過報告 平成25年4月1日より平成26年3月31日まで

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年繰越金	17,489,076	総会開催関係費	909,960
入会金：新入会員	1,832,000	贈呈記念品費	485,509
年会費	2,440,000	会報発行費	2,352,000
総会会費	786,000	会議費	62,134
諸事業収入(簗寿会会費)	472,000	通信費	19,104
受取利息	1,014	送料	0
教育基金より振替	340,000	旅費交通費	27,120
寄付1(記念碑用)(*1)	130,100	事務用品、消耗品費	4,061
高女記念碑基金へ振替	-130,100	教育援助金	100,000
寄付1(教育基金用)(*2)	42,213	奨学金	240,000
教育基金へ振替	-42,213	慶弔費	1,575
雑収入(Tシャツ売上純益)	42,000	諸事業経費(*3)	1,036,034
教育基金へ振替	-42,000	H P運営費(*4)	647,640
		手数料	2,600
		雑費(新入会員向けチラシ)	10,500
		予備費	0
小計	23,360,090	小計	5,898,237
		次年度繰越金	17,459,850
周年事業基金	1,628,994	周年事業基金	1,628,994
教育基金	1,539,686	教育基金	1,539,686
高女記念碑基金	307,600	高女記念碑基金	307,600
小計	3,476,280	小計	20,936,130
合計	26,836,370	合計	26,836,370

*3	
事業内容	金額
学年幹事連絡会	0
竹早祭企画	62,269
簗寿会	652,861
簗会特別セミナー	320,904
諸事業経費合計	1,036,034

*4	
事業内容	金額
ドメイン維持費	4,200
年間保守料	630,000
J i m d oサーバ使用料	13,440
諸事業経費合計	647,640

簗会 平成26年度収支予算(案) 平成26年4月1日より平成27年3月31日まで

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年繰越金(*1)	20,936,130	総会開催関係費	1,300,000
入会金：新入会員	1,800,000	贈呈記念品費	500,000
年会費	2,800,000	会報発行費	2,400,000
総会会費	1,000,000	名簿及びH P運営保守	800,000
雑収入	0	総務費(*2)	270,000
諸事業収入(簗寿会会費)	400,000	教育援助金	100,000
受取利息	1,000	奨学金	240,000
寄付	30,000	諸事業経費	1,150,000
		予備費	100,000
小計	26,967,130	次年度繰越金(*1)	19,446,050
		小計	26,967,130

総務費(*2)については下記のものをまとめて総務費とする
(会議費、通信費、送料、旅費交通費、事務用品費・消耗品費、慶弔費、手数料等含む)

(*1)上記繰越金には下記が含まれています。			
周年事業基金	1,628,994	周年事業基金	1,628,994
教育基金	1,539,686	教育基金	1,539,686
高女記念碑基金	307,600	高女記念碑基金	307,600
合 計	3,476,280	合計	3,476,280

事業内容検討案			
事業内容	金額	事業内容	金額
学年幹事連絡会	100,000	簗寿会	600,000
竹早祭出店企画	100,000	簗会特別セミナー	350,000
諸事業経費合計			1,150,000

(単位：円)

お知らせ

●年会費納入のお願い

いつもご協力ありがとうございます。年会費の複数口受け付けがはじまり、おかげさまで予算を上回る増収となりました。これからも同窓生相互の交流、親睦を深めるため、さらに母校及び現役生に貢献するためにも、箎会会計の充実を図りたく、会員の皆様のいっそうのご協力を宜しくお願い申し上げます。

【年会費は複数口受け付けます】

同封の郵便振込用紙をご利用ください。

- ・年会費 1口 1,000円 1口以上
- ・総会参加費 8,000円（参加の方のみ）

●「箎〇〇回生」について

会報のなかに、(箎〇〇回生)と記載されていますが、これは1901年の第一回卒業生が(箎1回生)＝(高女1回生)、1972年卒業の高校24回生は(箎72回生)、2014年の卒業生は(箎114回生)＝(高校66回生)というようになります。会員同士の卒業年数の差異がすぐわかり、会報や総会等で用いています。

●箎会総会幹事学年について

箎会総会は毎年6月に都内で開催されます。

今年は1972年卒（高校24回生、箎72回生）が幹事学年となります。一生に一度の幹事学年ですので、お誘い合わせのうえご出席ください。また、来年幹事学年となる1973年卒（高校25回生、箎73回生）の皆様も是非ご出席ください。なつかしい仲間と久し振りに語り合いましょ。

●ご意見・ご希望は

会報は同窓生みんなのものです。本誌へのご意見・ご希望を同封のハガキ（総会出欠用）等で「会報委員会」までお寄せください。

また、住所等が変わられた方は、「名簿委員会」までお知らせください。ご自分で箎会ホームページで変更することもできます。

〒112-0002 文京区小石川 4-2-1

東京都立竹早高校内「箎会」

箎会連絡用電話 090-8853-1901 takamurakai@gmail.com

<http://www.takamurakai.com>

箎会役員名簿＜平成26年4月現在＞

会 長	松本 紀子	(箎41回生)	理 事	今井 大弥太	(箎70回生)
名誉会長	高田 純一	(竹早高校校長)	〃	松澤 由利子	(箎70回生)
顧 問	星野 昌子	(箎50回生)	〃	水田 茂夫	(箎71回生)
〃	磯貝 恵三	(箎55回生)	〃	中村 光宏	(箎71回生)
副会長	香川 洋子	(箎68回生)	〃	塩見 健	(箎72回生)
〃	吉岡 新	(箎69回生)	〃	加藤 幸太郎	(箎72回生)
〃	古関 恵一	(箎77回生)	〃	伊坂 道子	(箎72回生)
理 事	古山 浩之助	(箎64回生)	〃	薩田 須美子	(箎72回生)
〃	池上 美知子	(箎68回生)	〃	青山 俊也	(箎77回生)
〃	小田 みどり	(箎68回生)	〃	飯塚 均	(箎77回生)
〃	岩野 英子	(箎68回生)	〃	鹿住 倫世	(箎82回生)
〃	松丸 直樹	(箎69回生)	〃	鈴木 克洋	(箎88回生)
〃	小野 由紀子	(箎69回生)	〃	平川 悟	(箎100回生)
〃	林 義昭	(箎69回生)	監 査	村上 伸一	(箎62回生)
			〃	高倉 孝生	(箎71回生)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

高女・専攻科

箎32回	高女32回	1932	昭7女	乙	前田 節子	(小林)	20137.14
箎37回	高女37回	1937	昭12女	白	加村 一代		20132.16
箎37回	高女37回	1937	昭12女	紅	福田 耀子	(岡野)	20133.13
箎40回	高女40回	1940	昭15女	紅	鳩山 安子	(石橋)	20132.11
箎40回	高女40回	1940	昭15女	紅	稲葉 良子	(坪田)	201311.21
箎40回	高女40回	1940	昭15女	白	祝 マナ	(野田)	20133.5
箎41回	高女41回	1941	昭16女		宮本 杏子	(工藤)	20137.27
箎41回	高女41回	1941	昭16女		堀内八重子	(田村)	20137.13
箎41回	高女41回	1941	昭16女		大井 米	(家寿多)	20138.4
箎44回	高女44回	1944	昭19女		松崎れい子	(高峰)	20134.2
箎44回	高女44回	1944	昭19女		大崎 ひろ	(関根)	20131
箎45回	高女45回	1945	昭20女⑤		浅田 輝子	(広井)	20135
箎46回	高女46回	1945	昭20女④		田中美知子	(井上)	20135.15
箎46回	高女46回	1945	昭20女④		谷口 幸	(小田)	201310.27
箎47回	高女47回	1946	昭21女		高盛美和子	(野田)	20132.9
箎48回	高女48回	1948	昭23女		田中 照子	(大久保)	20131.25

高校

箎53回	高校5回	1953	昭28高	B	木下 和子	(平井)	20139
箎66回	高校18回	1966	昭41高	F	出射 博子	(樫田)	20131.24
箎68回	高校20回	1968	昭43高	B	丸内 洋		20136.5
箎71回	高校23回	1971	昭46高	B	伊藤千鶴子	(春日)	20135.6

教員

菊地 敏己	20135
塩澤 利雄	20088

(敬称略)

* Web 同窓会システムでも確認できます。

* 平成26年3月31日までにご連絡いただいたものです。

編集後記

「小さな村の物語、イタリア」というテレビ番組をご存知でしょうか？生まれ育った故郷の村に住み、地元で農業や公務員や職人などの仕事に就き、村で知り合った恋人と家庭を築き、家族や両親を大切にしながらそれぞれの人生を送っているイタリアの男女が、毎回数名ずつ登場します。この番組を初めて見た時は、「なんとも覇気のない暮らし方だなあ」という間違っただけの印象を持ちましたが、やがて、ここに登場するイタリア庶民こそ、生まれ育った村を「心の拠り所」として、身近にいる家族を想いながら「心豊かに暮らす」知恵を身につけていると気付きました。縁あって昨年と今年の会報編集に携わる幸運に恵まれました。これからも、竹早の仲間との集いを心の拠り所として心豊かに暮らす知恵を身につけたいと願っています。(SM)



RECOLLECTION 修学旅行 / 姫路城 1972 + 卒業アルバム『東京都立 竹早高等学校' 72』より抜粋

会報編集委員

委員長 水田茂夫 (高校23回生)
 委員 香川洋子 (高校20回生)
 岩野英子 (高校20回生)
 吉岡 新 (高校21回生)
 松丸直樹 (高校21回生)
 林 義昭 (高校21回生)
 今井大弥太 (高校22回生)
 松澤由利子 (高校22回生)
 棚澤由貴子 (高校22回生)
 中村光宏 (高校23回生)
 奥田和美 (高校23回生)
 原田恵子 (高校23回生)
 加藤幸太郎 (高校24回生)

草刈真澄 (高校24回生)
 伊坂道子 (高校24回生)
 薩田須美子 (高校24回生)
 福田博文 (高校24回生)
 豊島良行 (高校24回生)
 塩見 健 (高校24回生)



篁会報

発行日 2014年4月23日
 発行 篁会
 〒112-0002
 東京都文京区小石川4-2-1
 東京都立竹早高等学校内
 連絡用電話 090-8853-1901
<http://www.takamurakai.com>
 編集 篁会 会報編集委員会
 印刷 共立速記印刷株式会社
 〒102-0072
 東京都千代田区飯田橋3-11-24

表紙デザイン：伊坂道子